

EWI4000s



ELECTRONIC WIND INSTRUMENT

ユーザーガイド rev.2.4.1

AKAI[®]
PROFESSIONAL

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
- 表示と意味は、次のようになっています。

 警告	誤った取扱いをすると、死亡や重傷などを負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	誤った取扱いをすると、傷害または家屋・財産などの損害の発生が想定される内容を示しています。

- 本文中の「図記号」の意味は次のとおりです。

	「禁止」を表わします。
	「改造・分解の禁止」を表わします。
	「風呂、シャワー室での使用禁止」を表わします。
	「ぬれ手禁止」を表わします。
	「水ぬれ禁止」を表わします。
	電源コードを引っ張らないでください。
	「必ずしてほしい行為」を表わします。
	電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

⚠ 警告

■電源はDC (直流)9ボルトです。

表示された電源電圧(直流9ボルト)以外の電圧で使用しないでください。

火災・感電の原因となります。



■この機器の上に水などの入ったコップや針金、ピンなどの金属片を置かないでください。

こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



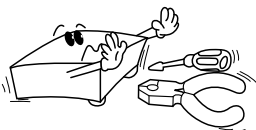
■洗面所や風呂場などの水場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。



■この機器を改造しないでください。

火災・感電の原因となります。



■この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは外さないでください。

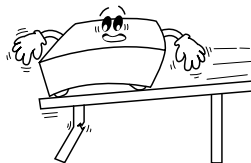
感電の原因となります。

内部の点検・整備・修理はお買い上げ販売店、または inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部にご依頼ください。



■ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

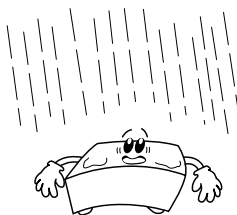
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。

火災・感電の原因となります。

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特に注意してください。



⚠️ 注意

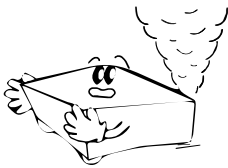
■万一、機器内部に水や異物が入った場合は、ACアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店、または inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部にご連絡下さい。

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



■万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにACアダプターをコンセントから抜いてください。

煙が出なくなるのを確認してお買い上げ販売店、またはinMusic Japan株式会社 カスタマーサポート部に修理をご依頼ください。



■湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



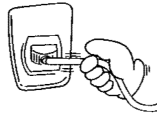
■ACアダプターの電源コードが傷んだ場合
電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、お買い上げ販売店、または inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



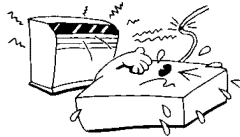
■ACアダプターの電源コードの取扱いについて

○電源コードは絶対に引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

必ずプラグを持って抜いてください。



○電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



○濡れ手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



一般的なご注意

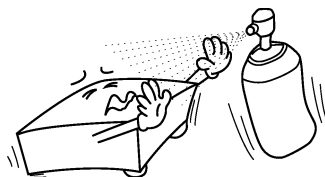
本機の性能を維持し、最良の状態で使用できるよう以下の点にもご注意ください。

■お手入れについて

汚れやホコリは、柔らかい乾いた布で拭きとってください。特に汚れがひどい場合は、うすめた食器用洗剤か中性洗剤を柔らかい布に少量含ませて拭きとってください。シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

■スプレー式の殺虫剤にご注意

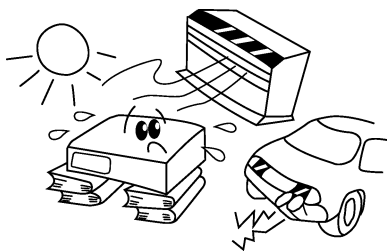
本機に殺虫剤がかかると、パネル表面が傷んだり変色することがあります。スプレーをまく前にカバーをするなど注意が必要です。



■設置場所について

本機を使用する場合は、以下の場所での使用はおすすめできません。

1. 暖房器具の放射熱や直射日光のあたる所
2. 風通しの悪い所
3. 水平でない所
4. 極端に寒い所、あるいは暑い所
5. 自動車、船内などの振動の影響を受けやすい所



・接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ず全ての機器の電源を切ってください。

・機器の電源を切ってからもう一度電源を入れなおすときは、機器の動作を確実にするため、数秒の間をおいてから行ってください。

■故障が発生したら

ご使用の製品が故障したり異常を感じた場合は、すみやかに電池または、ACアダプターをコンセントから抜き、接続コードなどを取り外してください。

・モデル名： EWI4000s

・故障や異常の具体的な症状

・ご自宅の住所・電話番号

などをお買い上げの販売店、
または株式会社inMusic Japan株式会社までご連絡ください。

■保証について

この製品に添付されている「保証書」に、お買い上げの年月日・販売店などの所定事項が記入されているのをご確認ください。故障に際して「保証書」の提示がございませんと保証期間内でも有料修理となりますので、保証書記載内容をご確認の上、この取扱説明書と一緒に大切に保管してください。

お問い合わせ

inMusic Japan株式会社

カスタマ・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビルディング6階

<http://ewi.akai-pro.jp/support/>

目次

第1章 はじめに	1
EWI4000sの特徴	1
各部の名称／機能	2
本体上部	2
本体側面／裏側	3
A. プログラム・データ表示部	4
B. グライド・プレート部	4
C. ベンド・プレート部	5
D. 電源・MIDI／オーディオ出力部	6
E. ケーブル・クラッチ、電池ケース部	6
ご使用の前に.....	7
電池の入れ方.....	7
ACアダプター.....	7
接続のしかた.....	8
ラインアウトをミキサーやキーボードアンプにつなぐ.....	8
ヘッドホンをヘッドホン・アウトにつなぐ.....	8
市販のワイヤレスシステムつなぐ.....	9
ケーブル・クラッチの取り外し.....	9

第2章 基本操作 10

EWI4000sについて	10
--------------------	----

基本的な奏法	11
--------------	----

持ち方	11
-----------	----

ノート・キーの操作について	11
---------------------	----

オクターブ・ローラー	11
------------------	----

アース・プレート	11
----------------	----

マウス・ピース	12
---------------	----

ビブラート	12
-------------	----

タンギング	12
-------------	----

ベンド*	13
------------	----

グライド*	13
-------------	----

HOLDボタンとOCTボタン	13
----------------------	----

各センサーの感度調整および設定	14
-----------------------	----

ブレス・センサーの調整	15
-------------------	----

ベンド・センサーの調整	16
-------------------	----

ビブラート・センサーの調整	17
---------------------	----

グライド・センサーの調整	17
--------------------	----

タッチセンス感度調整	18
------------------	----

第3章 EWIを使いこなす 20

音色(プログラム)の選択	20
音色(プログラム)の選択	20
ノートにプログラムナンバーを割り当てる.....	21
ノートに割り当てたプログラムナンバーを呼び出す.....	22
音色(プログラム)の選択 - 応用 -	23
HOLDボタンをプログラム・アップ・ボタンとして使用する.....	23
OCTボタンをプログラム・ダウン・ボタンとして使用する.....	24
音量やエフェクトに関する調整	25
EWI4000s全体の音量を調整する.....	25
プログラムごとの音量を調整する.....	25
リバーブ音量の調整する.....	26
プログラムごとのリバーブ音量を調整する.....	26
プログラムごとのディレイ音量を調整する.....	27
プログラムごとにコーラスエフェクトのオンオフを設定する.....	28
オクターブ機能(OCTボタン)	29
オクターブ機能をOCTボタンに割り当てる.....	29
ホールド機能(HOLDボタン)	30
ホールド機能をHOLDボタンに割り当てる.....	30
グライド機能 - 応用 -	31
キーディレイ	32
移調(トランスポーズ)の設定	33
チューニング(チューン)の設定.....	34
PCから音色をエディットする.....	35

第4章 MIDIコントローラーとして使う 36

MIDIとは36

MIDIコントローラーとして使用する際に必要なもの37

接続37

MIDI音源モジュール側の設定37

EWI4000s側の設定38

プログラムチェンジ38

MIDIコントローラーとして使う(応用編) 39

MIDIチャンネルの変更39

ブレス・センサーの出力の変更40

ベロシティ値の設定42

ビブラート・センサー出力の変更43

OCTボタンの機能(MIDI接続時)44

HOLDボタンの機能(MIDI接続時)44

ホールド機能の設定44

MIDIパルタメントON/OFF情報の出力45

内部に保存している設定をリセットする46

仕様 47

運指表 48

MIDIインプリメンテーション・チャート 52

故障かな?と思ったら... 53

第1章 はじめに

このたびは、AKAI Professional ELECTRIC WIND INSTRUMENT EWI4000sをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。この使用説明書には、EWI4000sの「使用方法」「注意事項」などが説明されています。EWI4000sをご使用になる前に、この使用説明書をよくお読みいただき、正しい取扱方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用下さいますようお願い申し上げます。また、使用説明書は必要なときにすぐ取り出せるよう、わかりやすい所に保管することをおすすめします。

EWI4000sの特徴

- ・ サクソフォンやクラリネット等の木管楽器とほぼ同様の操作で演奏することができます。
- ・ マウスピースをくわえる強さや吹く息の強さに応じて反応する特殊センサーにより、音程、音質、音量の微妙なコントロールが可能。プレイヤーの表現力を余すことなく伝えます。
- ・ ピッチ・ベンドやグライド効果を簡単に得られるタッチ・プレートや8オクターブの音域にわたってシフト可能なオクターブ・ローラーを装備しています。
- ・ タッチ・センス・キーにより、メカニカルなキーでは実現できないような素早い演奏が可能です。
- ・ 音源だけでなくリバーブやディレイなどのエフェクトを内蔵しているので、外部に音源やエフェクターを用意しなくてもケーブルをつなぐだけですぐ演奏を始めることができます。
- ・ 電池(単三×4本)で動作しますので、市販のワイヤレスシステムと組み合わせて使用することで、ケーブル無しで演奏することができます。
- ・ 音色変更や音量調整、エフェクトレベルの調整まで本体のみで行えます。
- ・ MIDI OUT端子に外部MIDI音源モジュールを接続することで、MIDIコントローラーとして使用することができます。
- ・ 音色エディットソフト「Uniquet EWI4000s」(本製品付属CD-ROMに収録)を使って本体のプリセット音色を好みの音色にエディットすることができます。
- ・ ヘッドホン端子を装備しているので、自宅で練習するときでも直接ヘッドホンをつなぐだけで始められます。

各部の名称/機能

■本体上部

ホールド・ボタン

初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでホールド機能を割り当てると、レガートで演奏したときに最初のノートを維持したまま別のノートを重ねて演奏することが出来ます。また、プログラム・アップ機能を割り当てると、プログラム・キーに触れなくてもプログラムを変更することが出来ます。各種設定を行うときは(セットアップ・モード時)データ「+」ボタンとして働きます。

オクターブ・ボタン

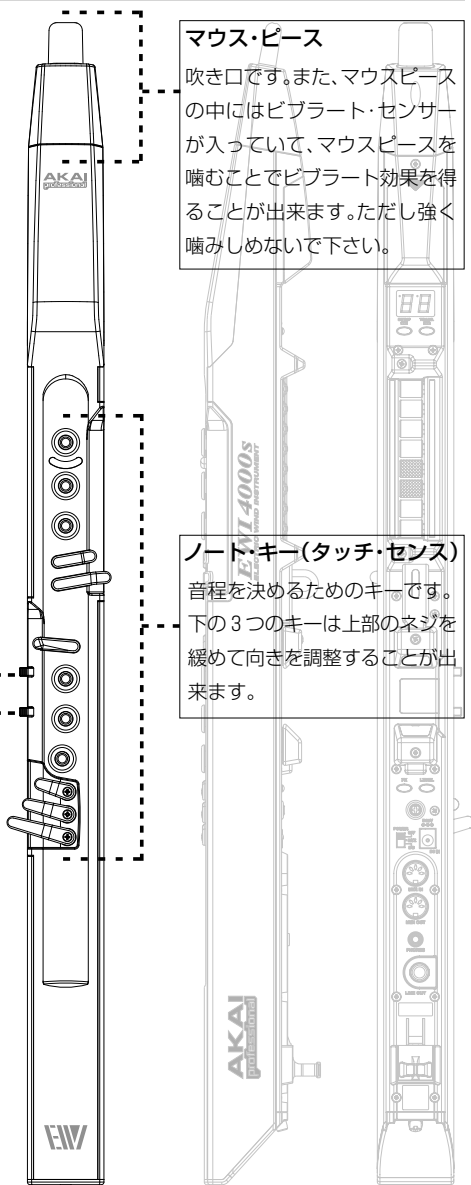
初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでオクターブ機能を割り当てると、演奏しているノートに1オクターブ下の音が重なって鳴ります。また、プログラム・ダウン機能を割り当てると、プログラム・キーに触れなくてもプログラムを変更することが出来ます。各種設定を行うときは(セットアップ・モード時)データ「-」ボタンとして働きます。

マウス・ピース

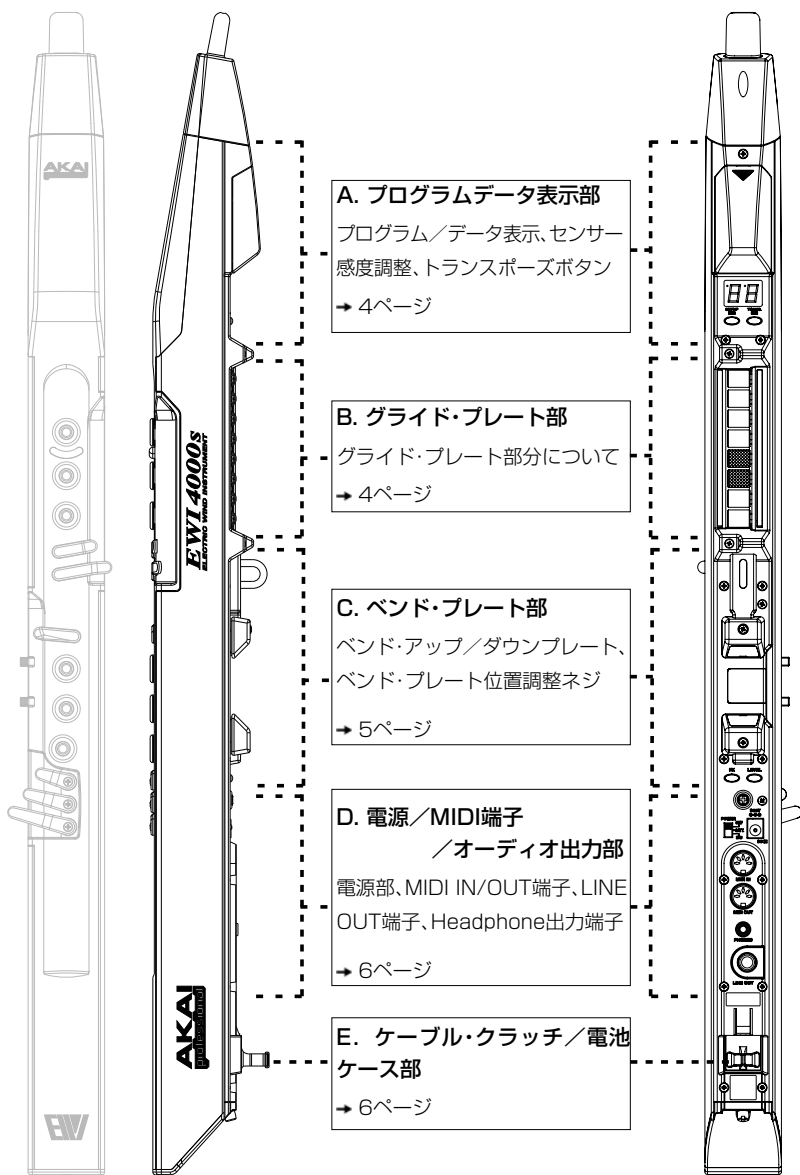
吹き口です。また、マウスピースの中にはビブラート・センサーが入っていて、マウスピースを噛むことでビブラート効果を得ることが出来ます。ただし強く噛みしめないで下さい。

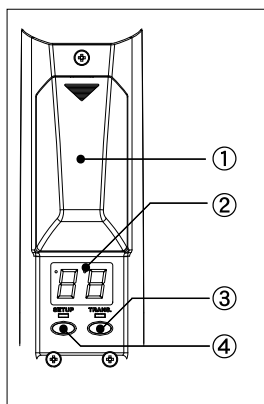
ノート・キー(タッチ・センス)

音程を決めるためのキーです。下の3つのキーは上部のネジを緩めて向きを調整することが出来ます。



■本体側面／裏側

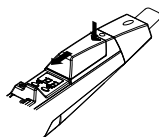




A. プログラムデータ表示部

1. センサー感度調整

ふたを開けると各センサーの感度を調整するためのツマミが並んでいます。調整方法については14ページをお読みください。



2. プログラム／データ表示

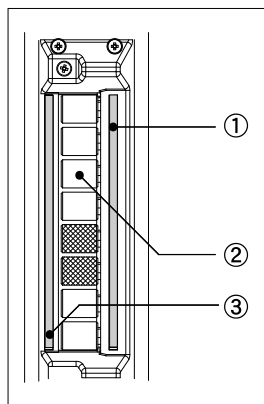
状況に応じてプログラムナンバーや設定値を表示します。

3. TRANS (トランスポーズ) ボタン

トランスポーズ機能のオンオフを切り替えます。オンの時はLED が点灯します。ボタンを押している間、トランスポーズの値が表示され、この時HOLD、OCT ボタンで値を変更することができます。

4. SETUP (セットアップ) ボタン

各種設定を行うセットアップ・モードに入るためのボタン。セットアップ・モードのときLED が点灯します。



B. グライド・プレート部

1. グライド・プレート(タッチ・センス)

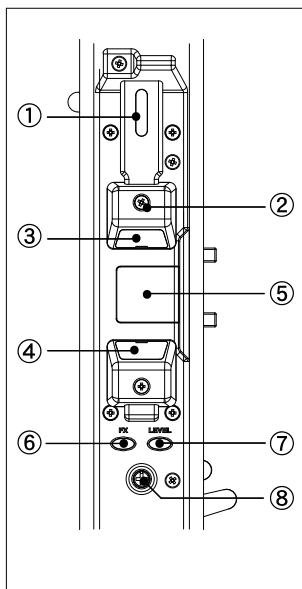
グライド・プレートに触れながら演奏すると音程の変化が滑らかになります。

2. オクターブ・ローラー(タッチ・センス)

演奏するオクターブ(音程)を決めるためのセンサーです。演奏中は常時触れている必要があります。

3. 左手用アース・プレート(タッチ・センス)

タッチセンサーを正しく動作させるためには右手用、左手用どちらかのアース・プレートに常時触れている必要があります。



C. ベンド・プレート部

1. スリング・マウント

ここにスリンガーを装着します。

2. プログラム・キー(タッチ・センス)

ベンド・アップ・プレート上部にあるネジがタッチセンス付きのキーになっています。プログラム(音色)を変更する場合に使用します。ノート・キーに触れない状態でこのキーに触れると、現在のプログラムナンバーが表示されます。この時HOLD、OCT キーでプログラムを変更できます。

3. ベンド・アップ・プレート(タッチ・センス)

プレートに触れると音程が上がります。ねじを緩めて位置を調整することができます。

4. ベンド・ダウン・プレート(タッチ・センス)

プレートに触れると音程下がります。ねじを緩めて位置を調整することができます。

5. 右手用アース・プレート(タッチ・センス)

タッチセンサーを正しく動作させるためには右手用、左手用どちらかのアース・プレートに常時触れている必要があります。

6. FX (エフェクト)ボタン

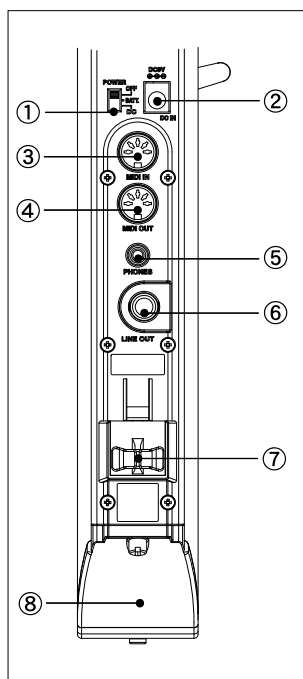
ボタンを押している間、リバーブのマスターレベルの設定値が表示され、この時HOLD、OCT ボタンで値を変更することができます。各プログラムのエフェクトレベルを調整する場合はボタンを押しながらSETUP ボタンを押します。

7. LEVEL(レベル)ボタン

ボタンを押すと現在のマスターレベルの設定値が表示され、この時HOLD、OCT ボタンで値を変更することができます。各プログラムレベルを調整する場合はボタンを押しながらSETUPボタンを押します。

8. タッチセンス感度調整

タッチ・キーの感度調整用です。工場出荷時に調整済みですので通常は自分で調整する必要はありません。



D. 電源・MIDI／オーディオ出力部

1. 電源スイッチ

電池で使用するときは「BTT.」を、別売りのACアダプター「MP-9」を使用するときは、「DC」を選択してください。EWI4000sを使用しないときは「OFF」を選択してください。

2. DC IN 端子

別売りのACアダプター「MP-9」を接続します。電池で使用する場合は必要ありません。

3. MIDI IN 端子

音色編集ソフトを使ってPCで音色をエディットするときにPCのMIDI OUTに接続します。

4. MIDI OUT 端子

音色編集ソフトを使ってPCで音色をエディットするときにPCのMIDI INに接続します。EWI4000sをMIDIコントローラーとして使用するときは、音源モジュールのMIDI IN端子と接続します。

5. PHONES 端子(ステレオ・ミニ・ジャック)

ヘッドホンを接続します。

6. LINE OUT 端子

ミキサーやアンプの入力端子と接続します。

E. ケーブル・クラッチ電池ケース部

7. ケーブル・クラッチ

ここにケーブルを固定することでケーブルを抜けることができます。

8. 電池ケース

電池(単三×4)を収納します。ふたを固定しているねじは硬貨などを使って緩めることができます。

ご使用の前に

EWI4000sを操作するうえで、次の点にご注意ください。

- ・ マウス・ピースにはビブラート・センサーが内蔵されていますので、演奏中にマウスピースを圧迫する場合、必要以上の力でかみしめないでください。
- ・ マウス・ピースを必要以上に変形させると故障の原因になります。使用後や持ち運びの際には、付属のマウス・ピース・キャップをご使用下さい。
- ・ 常に<アース・プレート>と<オクターブ・シフト・ローラー>にタッチしながらプレイ、および音作りをしてください。EWI4000sの各“タッチセンサー”は、演奏者のボディ・アースによって動作します。
- ・ マウス・ピースは清潔に保ってください。EWI4000sのマウス・ピースは、演奏者の口腔内に直接触れますので、演奏中および演奏前後の衛生管理には十分に気を配ってください。表面を消毒用アルコールで清浄してください。

■電池の入れ方

電池は単三アルカリ電池を使用してください。市販の単三型充電式電池を使用することもできます。

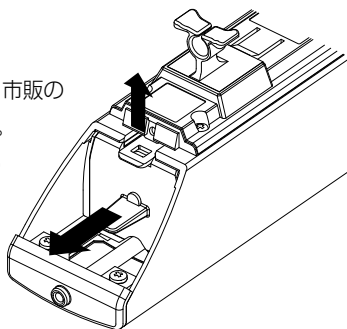
電池で使用するときは電源スイッチ(POWER)を「BATT.」の位置にセットしてください。

使用しないときは電池の消耗を防ぐために電源スイッチを「OFF」にセットしてください。

使用中に電池がなくなってきた場合、プログ

ラム／データ表示部分のドットLEDが点滅します。点滅が始まったら早急に電池を交換してください。

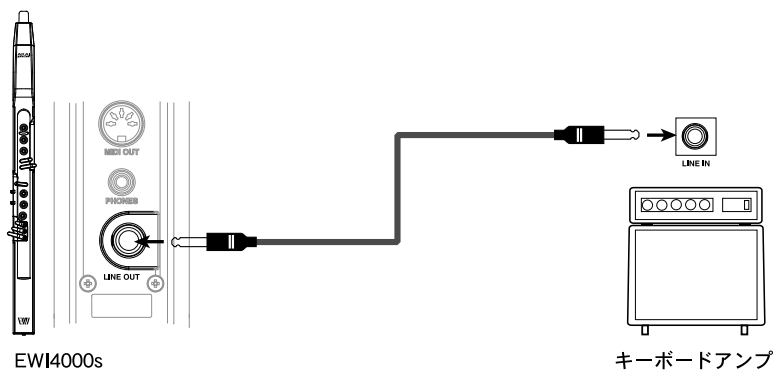
電池を装着する際は電池の向きに注意してください。長時間使用しない場合は本体から電池を取り除いて保管してください。種類の違う電池を混合して使用しないでください。



接続のしかた

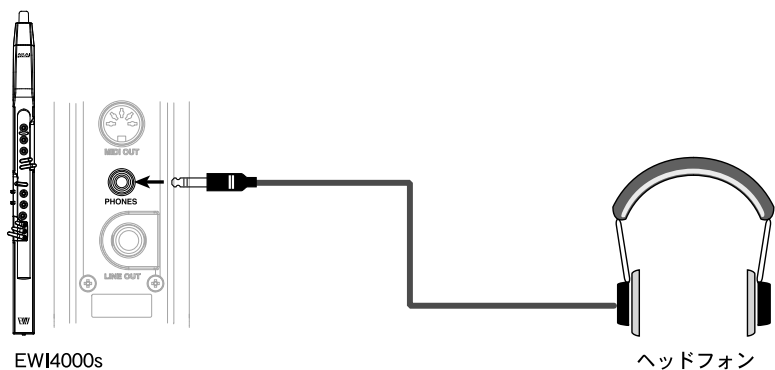
■ラインアウトをミキサーやキーボードアンプにつなぐ

EWI4000sのLINE OUT端子とキーボードアンプのLINE INやラインミキサーのチャンネル入力を接続します。



■ヘッドホンヘッドホンアウトにつなぐ

ヘッドフォンのプラグをEWI4000sのPHONES端子(ステレオミニジャック)に接続します。

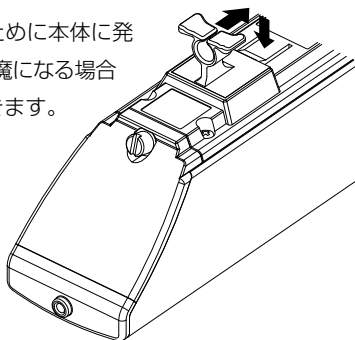


■市販のワイヤレスシステムにつなぐ

EWI4000sは音源そのものを本体に内蔵していますので、市販のギター用ワイヤレスシステムなどを使って演奏することができます。

■ケーブル・クラッチの取り外し

ギター用のワイヤレスシステムを使用するために本体に発信器を取り付ける際、ケーブル・クラッチが邪魔になる場合は、ケーブル・クラッチを取り外すことができます。



第2章 基本操作

EWI4000sについて

EWI4000sは木管楽器タイプのコントローラーに音源とエフェクトを内蔵して、本体だけでアコースティックな楽器に劣らぬ豊かな表現力と、電子楽器ならではの特性(たとえば広い音域やバラエティーに富んだ音色etc.)を兼ね備えています。従来の製品では演奏するために外部の音源やエフェクターを用意する必要がありましたが、EWI4000sには音源もエフェクターも内蔵されていますので、EWI4000sをミキサーに接続するだけですぐに演奏を始めることができます。ただし、細かなニュアンスやダイナミックな演奏を正確に表現するためには、EWI4000sの機能を理解した上で演奏する方が、よりいっそう表現力豊かな演奏が可能となります。また、人によっては息を吹き込む強さにも差がありますが、センサーの感度を調整することで各自にあわせた設定を行うことも重要です。

EWI4000sの電源を入れて演奏できる状態のことを「プレイ・モード」と呼び、通常はこのプレイ・モードで使用するようになります。センサー感度の調整やMIDIに関する設定など、各種設定をするときは、SETUPボタンを押して「セットアップ・モード」で行います。基本的にはこの二つのモードを使い分けることになりますが、感度調整や各種設定を一度行ってしまえば、通常はプレイ・モードだけで使用することができますように設計されています。まずは「基本的な奏法」をお読みいただいたうえで、実際の演奏にトライしてみてください。

基本的な奏法

最初にEWI4000sの基本的な奏法を理解した上で実際の演奏に入りましょう。

持ち方

EWIはタッチセンス方式のキーを採用しているので、速いパッセージを演奏をするには大変有利ですが、通常の管楽器のようなキーアクションが無いため、軽く指でキーに触れただけでそのキーの音が出ます。EWIを持つ時は指を自由に動かせるように、必ずスリンガーを使用してください。



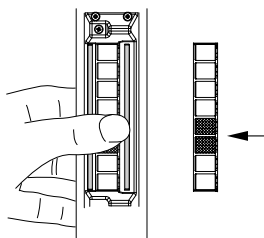
ノート・キーの操作について

基本的にはサキソフォンやクラリネットなど、木管楽器と同様の運指で演奏することができます。詳しい運指については48ページ～50ページの運指表を参考にしてください。

また、EWI4000sではアコースティック楽器では実現できないような様々な替指を使うことができます。運指表を参考に自分流の替指を開発するのも面白いかもしれません。

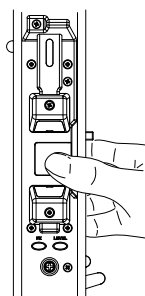
■オクターブ・ローラー

ローラーとローラーの間に左手親指を置き、二つのローラーに常に触れている状態で使用します。基本となるのはローラーにギザギザのついているところです。



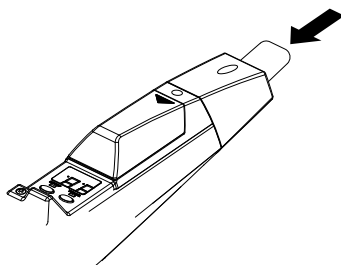
■アース・プレート

アース・プレートは右手用と左手用で2カ所あります。常にどちらか一方に触っている必要があります。



■マウスピース

軽く噛むようにくわえ、口の両端から息を抜くように吹いてください。EWI4000sではプレス・センサーに加わる圧力を検知して音の強弱や音色の変化を表現します。そのため、大量の息がコントローラーの管の中を抜けないようになっているのでこのような独特な吹き方をします。また、ロングトーンの場合は口の両端から抜く息の量を減らしてやることで、少ない息で音



をのばし続けることができます。このように、フレーズによって吹き方を替えたりすることで、表現力豊かな演奏ができるようになります。慣れないうちは難しく感じるかもしれませんが、練習を重ねるうちに自然とコントロールできるようになります。

■ビブラート

マウスピースの中にはビブラート・センサーが入っていて、マウスピースを噛むことでビブラート(音を揺らす)効果を得ることができます。ビブラートの効果は軽く噛むだけで得られますので力を入れて噛む必要はありません。強い力で噛みすぎるとマウスピースやセンサーをいためてしまいますので注意してください。

■タンギング

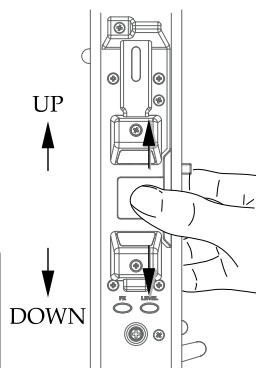
口の両端から息を抜きながら、口で「トゥットゥットゥツ」とか「トゥクトゥク」という感じで吹くことによって、いわゆるタンギングを行うことができます。

* センサー感度調整のBR[プレス]のS(センス)の位置にで多少ニュアンスが変わってきますので、いろいろ試してください。

■ベンド

ベンドアップ/ダウン・プレートに右手親指を触れる（アース・プレートにも同時に触れておく）ことによりピッチ・ベンド効果（音程のアップ/ダウン）を得ることができます。アース・プレートに触っている右手親指を上下にスライドさせるように動かします。

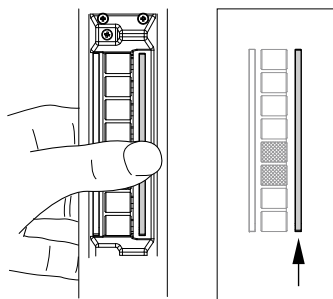
* ベンドに慣れるまでは、ベンドアップ/ダウン・プレートに無意識に触れてしまうことがありますので注意してください。ベンドセンサーはねじを緩めて、位置を調整することができます。



■グライド

左手親指をグライド・プレートに触れながらオクターブ・ローラーで音程を変えると、グライド効果（音程を滑らかに上げ下げすることで、ポルタメント効果とも呼ばれます）を得ることができます。

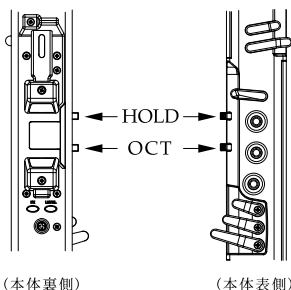
* グライドに慣れるまでは、グライド・プレートに無意識に触れてしまうことがありますので注意してください。



■HOLDボタンとOCTボタン

これらの二つのボタンは、初期設定では機能が割り当てられていませんが、セットアップ・モードでそれぞれホールド機能（30ページ参照）とProgram Up機能（23ページ参照）、オクターブ機能（29ページ参照）とProgram Down機能（24ページ参照）を割り当てることが出来ます。

各種設定を行うときは（セットアップ・モード時）（本体裏側）



（本体表側）

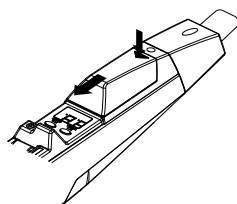
データ「+」/「-」ボタンとして働きます。

■各センサーの感度調整および設定

EWI4000sではプレイヤーの息の強弱や微妙なピッチ・ベンドなどの演奏情報を余すことなく音として表現するために、各センサーの感度調整や設定が必要です。

* 工場出荷時に各センサーの調整はされていますが、演奏前に再度各センサーの感度調整および設定を行ってください。各センサーが正しく調整されていないと、演奏に支障を起こす場合があります。

感度調整のためのツマミはプログラム/データ表示部分の上にあるカバーを開けたところにあります。次の図の要領でカバーを取り外してください。



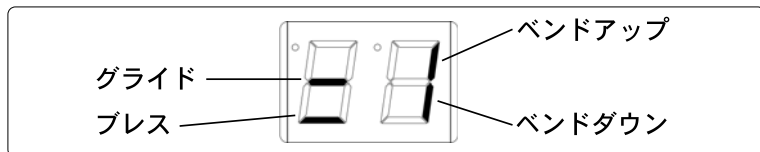
各ツマミの機能は以下のようになります。

グライドセンサー調整 ツマミ(A)		グライドTime設定 ツマミ(T)
ピッチベンドセンサー調整 ツマミ(A)		ピッチベンド・ワイズ設定 ツマミ(W)
ビブラート・ディプス調整 ツマミ(A)		
ブレスセンサー調整 ツマミ(A)		ブレス・センス ツマミ(S)

各センサーの感度調整はセットアップ・モードで行います。

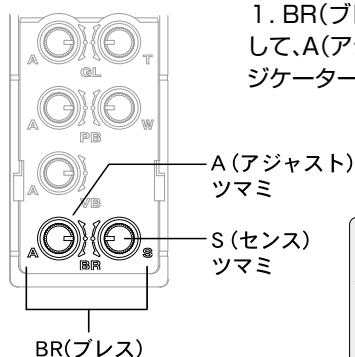
- 1.SETUPボタンを押してください。
- 2.SETUP LEDが点灯してセットアップ・モードになります。

セットアップモードではプログラム・データ表示部が各センサーの状態を表すインジケータとなります。

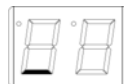


■ ブレス・センサーの調整

ブレス・センサーは息の強さで音量や音色をコントロールして表現豊かな演奏を行うための最も重要なセンサーです。



1. BR(ブレス)のS(センス)ツマミを真ん中にセットして、A(アジャスト)ツマミを右に回すと、Breathインジケーターが点灯して、左に回すと消灯するはずです。



※ Breath インジケーターが点灯しているとき、EWI4000sから音が出ます。ブレスの感度調整を行う際は、接続している機器の音量設定にも注意してください。

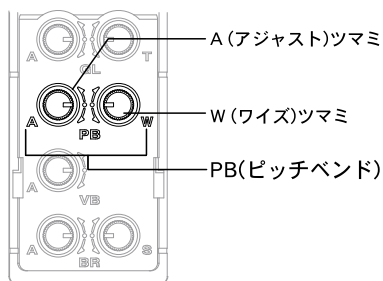
- インジケーターが点灯している状態から徐々にAツマミを左に回して、インジケーターが消える位置に設定してください。(この時同時に音も出なくなります。)
- EWI4000sを正しい姿勢で持ち、マウスピースに息を吹き込んでみましょう。息を吹き込んだときに音が出て、息を止めたときに音も止まれば正常です。
- 続いて息の強弱を変えながら吹いてみて、音に強弱の違いがあるかを確認してください。

もし、思っているより強弱の変化が少ないようならSツマミを左に回して、強弱の違いが出るポイントを見つけてください。強弱の違いがつか強く吹かないと音が出ないようときはSツマミを右に回して、楽に吹けるポイントを見つけてください。Sツマミを右に回すと少ない息でも大きな音が出るようになりますが、強弱の変化はつきにくくなります。またSツマミを左に回すと強弱の変化はつきやすくなりますが、息をたくさん入れないと大きな音が出なくなります。息の量は人によって違うので、Sツマミを調整して自分にあったポジションを見つけてください。また、EWI流の吹き方(口の両端から息を抜きながら吹く)をマスターして息の量の調節がうまくできるようになった時は、再度調整してみるのもいいかもしれません。

* Sツマミを調整した時は再度Aツマミを調整してください。

■ベンド・センサーの調整

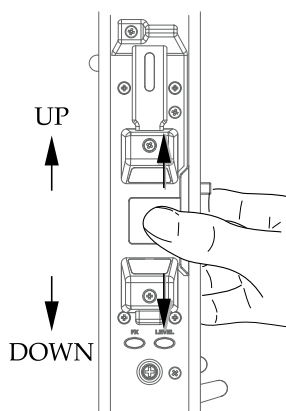
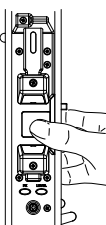
音程のアップ／ダウンによって演奏に表情をつけることができるベンド・センサーを調整します。



1. PB(ピッチ・ベンド) のW(ワイズ)ツマミを右一杯に回してください。

2. ベンド・アップ／ダウン・プレートに触らない状態でアース・プレートだけに触るようにしたとき、Bend upインジケーターとBend downインジケーターの両方が消灯するように、PB(ピッチ・ベンド)のA(アジャスト)ツマミを調整してください。

3. 両方のインジケーターが消えるポイントを見つけたら、EWI4000sを正しい姿勢で持ち演奏してみましょう。

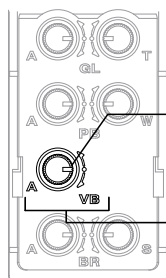


右手の親指をすらすらするような感じでベンド・アップ・プレートに触ると音程が上がり、ベンド・ダウン・プレートに触ると音程が下がれば正常です。ベンド・プレートに触る量や触り方で音程の変わり方が変わりますのでいろいろ試して演奏しやすい方法を見つけてください。音程が大きく変わりすぎるときはWツマミを左に回してください。

* Wツマミを調整した時は、再度Aツマミを調整してください。

■ビブラート・センサーの調整

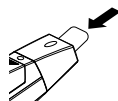
ビブラートセンサーはマウスピースの中に入っていてマウスピースを噛む力を検出して音にビブラート効果を与えます。



1. VB(ビブラート)のA(アジャスト)ツマミを真ん中ぐらいに設定して、EWI4000sを演奏して音を延ばしている最中にマウスピースを軽く噛んでみてください。

A(アジャスト)ツマミ

噛んだときに音に変化があるはずです。もし音の変化が少

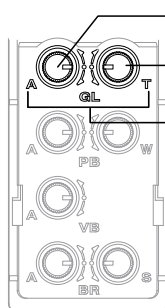


ないときはAツマミを右に回して、もう一度試してみてください。マウスピースを連続的に噛む(噛み続けるのではなく何度も噛む)ことでビブラートがかかります。

VB(ビブラート)

■グライド・センサーの調整

グライド・センサーはオクターブ・ローラーの右側にあるセンサーで、触れることで音程の変化を滑らかにする効果があります。



A(アジャスト)ツマミ

T(タイム)ツマミ

GL(グライド)

1. GL(グライド)のT(タイム)ツマミを真ん中ぐらいにセットして、A(アジャスト)ツマミを右に回すと、Glideインジケータが点灯して、左に回すと消灯するはずです。

2. インジケータが点灯している状態から徐々にAツマミを左に回して、インジケータが消える位置に設定してください。

3. 左手親指でオクターブ・ローラーとグライド・センサーの両方を触りながら演奏してみてください。

ノート・キーで音程を変えると音が滑らかに変わるはずですが、効果を確認するために、オクターブ・ローラーを使って、音程を1オクターブ一気に変えてみてください。音程が瞬時に変わらずにゆっくり時間をかけて音程が変わります。音程が変わる時間をもっと長くしたい場合はT(タイム)ツマミを右に回してください。効果が大きすぎて、音程が変わるのに時間がかかりすぎる場合はTツマミを左に回してください。

音程を変化させる方法はタイムとレートの2種類があります。詳しくは、31ページ「グライド機能(応用)」を参照下さい。

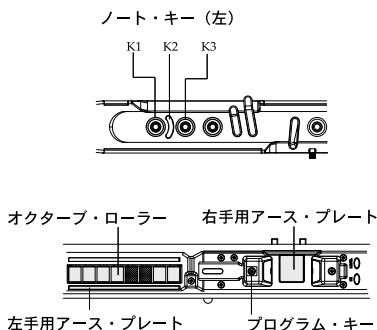
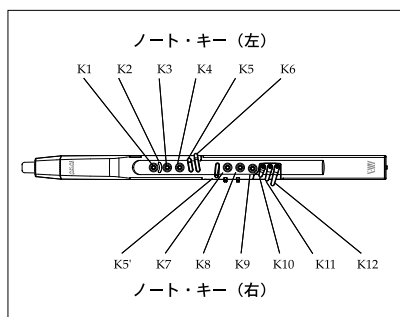
* Tツマミを調整した時は、再度Aツマミを調整してください。

■タッチセンス感度調整

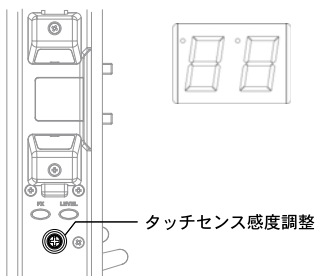
EWI4000sはメカニカルなスイッチではなくタッチ・キーを採用しています。通常、タッチ・キーの感度は工場出荷時に調整されていますので、自分で設定する必要はありません。ただ、温度や湿度といった環境の変化や、部屋の床の状態(静電気)などの理由により、キーが正しく反応しない場合があります。このようなときはタッチセンス感度調整を行ってください。

1. プレイ・モードで左手でノートキー(K1、K2、K3)とアース・プレートとオクターブ・ローラーを押さえてください。

※この時プログラム・キーには触れないでください。



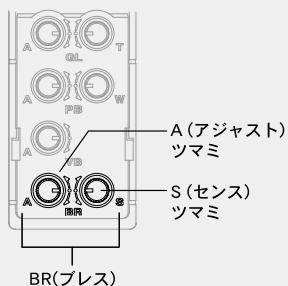
2. この状態ですでに、プログラム／データ表示部分に何か数字が表示されている場合は、タッチセンス感度調整を右に回して、表示が消えるポイントを見つけてください。そして、そこから更に少し右に回したところに設定してください。



プログラム／データ表示部分に何も表示されていない場合は、いったんタッチセンス感度調整を左に回して数字を表示させてから、右に回して表示が消えるポイントを見つけて、そこから更に少し右に回したところに設定してください。

3. 最後に左右の手でキーをなるべく多く押さえて、プログラム／データ表示部に何も表示されないことを確認ください。

※ 感度調整を面倒な作業のように思われるかもしれませんが、自分に合わせて感度を調整してやることで、演奏の表現力が増して、より細かなニュアンスのある演奏が行えるようになります。また、一度最初に調整してしまえば毎回調整する必要はありません。ただし、各センサーは大変デリケートにできているので、温度などの環境の変化で



感度が変わってしまう場合があります、そのような場合は再度感度を調整してください。また、EWIを始めてすぐの頃は、プレスの感度を軽くして(Sツマミを右に)吹く方が吹きやすかったりしますが、上達してプレスの強弱を上手にコントロールできるようになると、プレスの感度を重く(Sツマミを左に)した方が、より表現力のある演奏ができるようになります。

以上で調整は終わりです。

後は実際に演奏していろいろな機能を試してみてください。EWIはアコースティック楽器と同様に、練習することで上達していく楽器です。新しい楽器を始めるときはその演奏方法に最初は戸惑うかもしれませんが、練習を重ねることでEWIが無数の可能性を秘めた楽器であることに気づいていただけたと思います。EWIのプレイに決まりはありません。EWIをプレイしてあなたなりのEWIスタイルを発見してください。

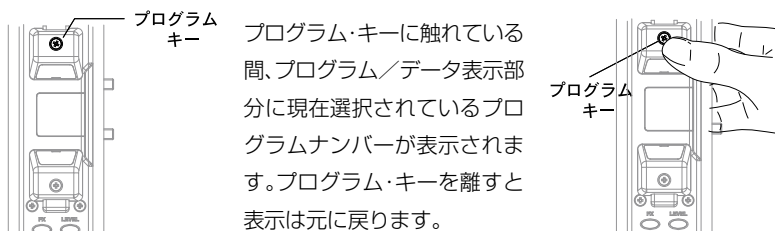
第3章 EWIを使いこなす

音色(プログラム)の選択

■音色(プログラム)の選択

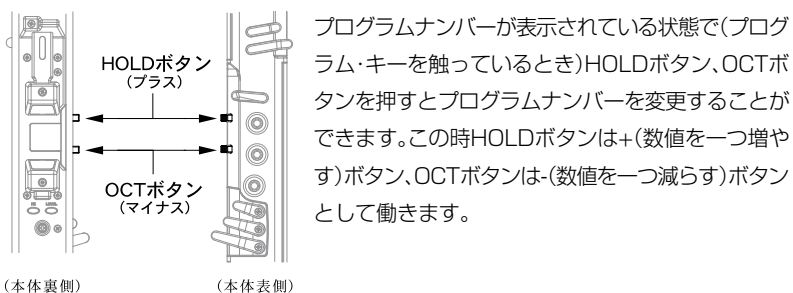
EWI4000sには100音色がプリセット音として搭載されています。それぞれの音色は「プログラム」と呼ばれ、プログラムナンバーを選択することで音色を切り替えて使うことができます。

1. ノート・キーを触っていない状態でプログラム・キーに触れてください。



※ ノート・キーに触れるとプログラム／データ表示部分には、現在選択されているプログラムナンバーではなく、そのノートの割り当てられているプログラムナンバーが表示されます。

2. HOLD, OCTボタンでプログラムナンバーを選択してください。



3. プログラム・キーを離すと音色が切り替わります

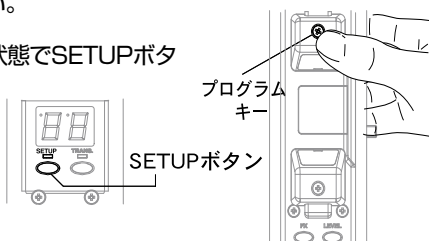
■ノートにプログラムナンバーを割り当てる

HOLDボタンとOCTボタンで一つずつプログラムナンバーを選択する方法のほかに、ノートにプログラムナンバーを割り当てて、直接そのプログラムナンバーに切り替える方法があります。この方法を使えばライブの途中でもプログラムを瞬時に切り替えることができます。ノートは運指やオクターブに関係無く、同じノートであれば同じプログラムナンバーに切り替わります。

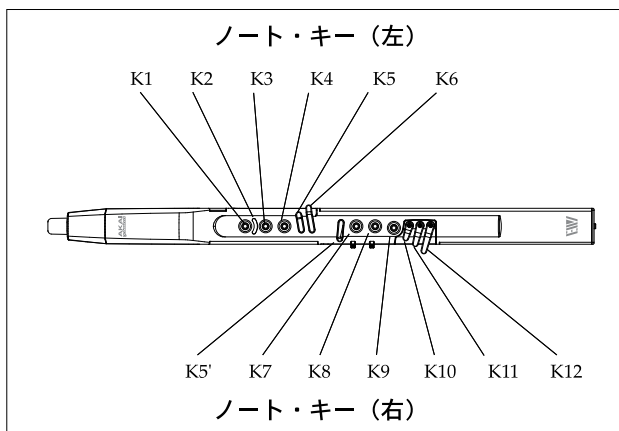
1. 「音色(プログラム)の選択(20ページ)」の要領でノートに割り当てるプログラムナンバーを選択して下さい。

2. プログラム・キーに触っている状態でSETUPボタンを押して下さい。

プログラム・データ表示部分に選択したプログラムナンバーが表示されます。



3. ノート・キーで割り当てたいノートを押さえてください



4. マウスピースに息を吹き込んでください。

選択していたプログラムが押さえていたノートに割り当てられます。

■ノートに割り当てたプログラムナンバーを呼び出す

「ノートにプログラムナンバーを割り当てる (21 ページ)」で割り当てたプログラムナンバーを呼び出す方法を説明します。

1. プログラム・キーに触れた状態でノートキーを押さえます。

呼び出したいプログラムナンバーが割り当てられているノートを押さえてください
プログラム／データ表示部分に割り当てられているプログラムナンバーが表示されます。運指やオクターブは関係ありません。

2. マウスピースに息を吹き込んでください。

プログラムナンバーが切り替わります。プログラム・キーを触れているときはマウスピースに息を吹き込んでも音は出ません。

音色(プログラム)の選択 - 応用 -

PROGRAMキーを使わないプログラム選択

EWI4000sでは通常PROGRAMキーに触れることでプログラムの選択を行います
が、プログラムの変更が曲の途中に頻繁にあるような場合は、PROGRAMキーを使わ
ずにHOLDボタンとOCTボタンだけで直接プログラムの選択が出来れば便利です。

ここではHOLDボタンとOCTボタンの機能を変更してPROGRAMキーを使わなくて
もプログラムの選択を行えるようにする設定について説明します。

■HOLD ボタンをプログラム・アップ・ボタンとして使用する

※ この設定を行なうとホールド機能は使用できなくなります。

1. SETUP ボタンを押してください

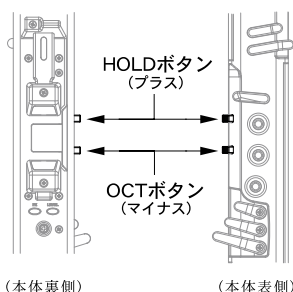
ボタンを押している間、プログラム／データ表示
部分にAd と表示されます。



2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタン を押して Ho を選択してください



SETUP ボタンを押しながらHOLD、OCT ボ
タンを押すことで、セットアップ・モードで設定
する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. Ho を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD,OCT ボタンで UP を選択してください



UP を選択するとHOLD ボタンはプログラム・アップ・ボタンとして働きます。

5. SETUP ボタンを押してください

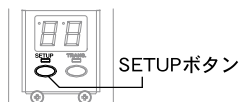
プレイ・モードに戻ります。

■OCT ボタンをプログラム・ダウン・ボタンとして使用する

※この設定を行なうとオクターブ機能は使用できなくなります。

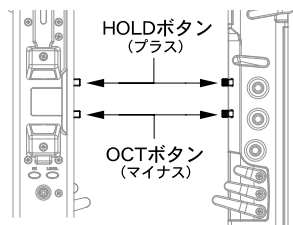
1. SETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。



2. SETUP ボタンを押しながら HOLD ボタンを押して Oc を選択してください

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. Oc を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD、OCT ボタンで dn を選択してください

dn を選択するとOCT ボタンはプログラム・ダウン・ボタンとして働きます。



5. SETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

以上の設定で、PROGRAM キーを使わなくてもHOLD ボタンとOCT ボタンだけでプログラムの選択を行なうことができます。

HOLD/OCT ボタンを押すと、選択されたプログラム・ナンバーをディスプレイに表示します。HOLD/OCT ボタンのどちらか一方だけをプログラム選択の機能に割り当てて使用することもできます。この時、もう一方のキーを併用することでプログラムのアップ/ダウンが可能です。HOLD ボタンをプログラム・アップ・ボタンとして使用して、OCT ボタンはオクターブ機能として使用している時でも、HOLD ボタンを押している間OCT ボタンはプログラム・ダウン・ボタンとして機能します。例えば、プログラム10 が選ばれている時、HOLD ボタンを押すとプログラム11がいったん選択されますが、HOLD ボタンを押したままの状態でもOCT ボタンを一度押すと、プログラム10 が選択され、もう一度押すとプログラム9 が選択されます。

音量やエフェクトに関する調整

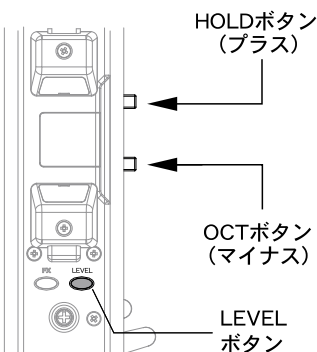
■EWI4000s全体の音量を調整する

1. LEVELボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に現在の設定値が表示されます。

2. LEVEL ボタンを押したままHOLD、OCTボタンでレベルを調整(01-30)してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。



■プログラムごとの音量を調整する

使うプログラム毎に音量を変えたいときに設定します。選択しているプログラムの音量だけを変更するので全体のレベルには影響しません。この設定はプログラム毎にメモリーされます。

1. 音量を調整したいプログラムを選択して下さい。

2. LEVELボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

プログラム／データ表示部分に現在の設定値が表示されます。

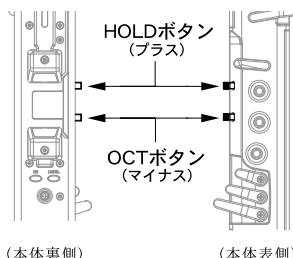


3. HOLD、OCTボタンでレベルを調整してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。

4. SETUPボタンを押してください。

通常のプレイモードに戻ります。

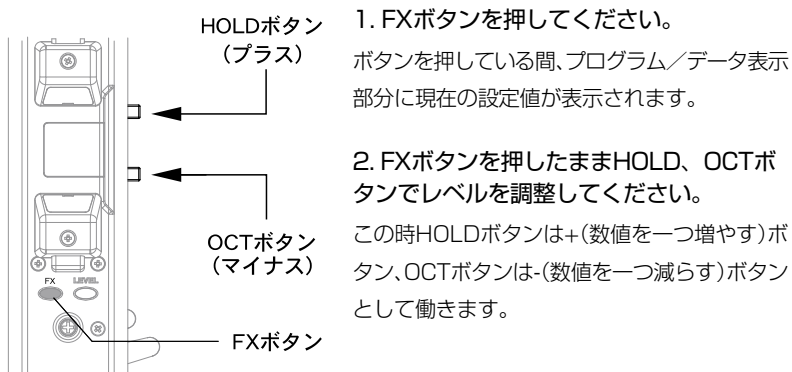


(本体裏側)

(本体表側)

■リバーブ音量の調整

EWI4000s全体のリバーブエフェクト音量のみを調整します。リバーブエフェクトとは、電子的に付加した残響音のことです。



■プログラムごとのリバーブ音量を調整する

プログラムごとにリバーブ音量を変えたいときに設定します。選択しているプログラムのリバーブ音量だけを変更するので全体のリバーブレベルには影響しません。この設定はプログラムごとにメモリーされます。



1. リバーブ音量を調整したいプログラムを選択して下さい。

2. FXボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にrbと表示され、ボタンを離すと現在の設定値が表示されます。



3. HOLD、OCTボタンでレベルを調整してくださいこの時HOLDボタンは+ (数値を一つ増やす) ボタン、OCTボタンは- (数値を一つ減らす) ボタンとして働きます。

4. SETUPボタンを押してください。

通常のプレイモードに戻ります。

■プログラムごとのディレイ音量を調整する

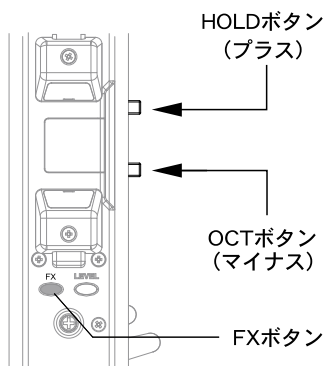
プログラムごとにディレイ音量を変えたいときに設定します。

ディレイとは、やまびこのように音を繰り返しながら減衰して行くエフェクトです。選択しているプログラムのディレイ音量だけを変更するのでリバーブレベルには影響しません。この設定はプログラム毎にメモリーされます。

※ ディレイの調整はプログラムごとの設定のみになります。

1. ディレイ音量を調整したいプログラムを選択して下さい。
2. FXボタンを押しながらSETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に rb と表示されます。



3. SETUPボタンは押したままの状態でもFXボタンから手を離してHOLDボタンを押して、rbの代わりにdLを選択してください。
dLを選択してボタンを離すと現在の設定値が表示されます。



4. HOLD、OCTボタンでレベルを調整してください。この時HOLDボタンは+（数値を一つ増やす）ボタン、OCTボタンは-（数値を一つ減らす）ボタンとして働きます。
5. SETUPボタンを押してください。
通常のプレイモードに戻ります。

■プログラムごとにコーラス・エフェクトのオンオフを設定する

プログラムごとにコーラス・エフェクトのオンオフを設定します。コーラス・エフェクトは、原音に変調のかかった音をミックスして音に厚みを加えるエフェクトです。この設定はプログラムごとにメモリーされます。

※ コーラスの調整はプログラムごとの設定のみになります。

1. FX ボタンを押しながらSETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にrb と表示されます。

2. SETUP ボタンを押したままの状態
FX ボタンから手を離し、HOLD ボタン
を2 回押して、rbの替わりにCH を選択
してください。



CH を選択してボタンを離すと現在の設定が表示されます。

3. HOLD、OCT ボタンでオンかオフを選択してください。



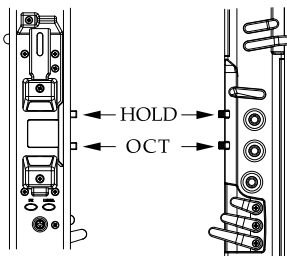
オン(on)を選択するとエフェクトがかかり、オフ(OFF)を選択するとエフェクトがかかりません。

4. SETUP ボタンを押してください。

通常のプレイモードに戻ります。

オクターブ機能 (OCTボタン)

オクターブ機能をOCTボタンに割り当てることで、演奏している音程に1オクターブ下の音程を追加することができます。曲の途中のサビの部分など音に厚みを付けたいときに効果的です。ここではOCTボタンにオクターブ機能を割り当てる方法について説明します。



■オクターブ機能をOCTボタンに割り当てる

(本体裏側)

(本体表側)

1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Oc を選択してください。
SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



3. Ocを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「OF」と表示されます。

これはオクターブ機能がオフに設定されていることを表しています。



4. HOLD, OCTボタンで「on」を選択してください。

onを選択するとオクターブ機能が使用できるようになります。



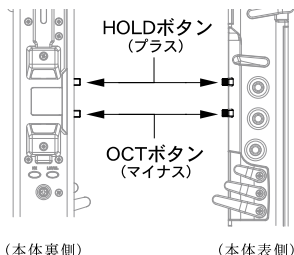
5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。

OCTボタンにオクターブ機能が割り当てられている時、OCTボタンを押すとLEDが点灯してオクターブ機能がオンになり、実際に演奏している音程に1オクターブ下の音が追加されます。もう一度ボタンを押すとLEDが消灯してオフになります。

ホールド機能 (HOLDボタン)

ホールド機能をHOLDボタンをに割り当てることで、2声の和音演奏が可能になります。



例えば、息を切らずにドーマーソと演奏した場合、ホールド機能がオフのときは、「ドーマーソ」と一つずつのノートがそのまま演奏されますが、ホールド機能をオンにしているときは、「ドーマー(ドとミの和音)ー(ドとソの和音)」というように、最初の音を維持しながら次のノートが重なってなります。

ここではHOLDボタンにホールド機能を割り当てる方法について説明します。

■ホールド機能をHOLDボタンに割り当てる

1. SETUPボタンを押してくださいボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Ho を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セツトアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



3. Ho を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「OF」と表示されます。

これはホールド機能がオフに設定されていることを表しています。



4. HOLD, OCTボタンで So を選択してください。

Soを選択するとホールド機能が使用出来るようになります。

SoとOFの他にSuも選択可能ですが、So、Suのいずれを選んだ場合もホールド機能はオンになります。So、SuはEWI4000sをMIDIコントローラーとして使用する場合に必要な設定です。(44ページ参照)



5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。

※HOLD機能をHOLDボタンに割り当てるとEWI4000sの音量が少し小さくなります。これは2つの音が同時に鳴ることによる音の歪みを防ぐためで故障ではありません。

グライド機能 - 応用 -

グライド機能を使用する際の音程変化の仕方を選択することができます。変化の仕方は以下の2 種類から選択できます。

Rate (レート) 最初の音程と次の音程が近いか離れているかに関わらず、同じ早さで音程が変わります。したがって音程が近い場合はすぐに音程が変わりますが、音程が離れている場合は、最初の音程から次の音程に変わるまで時間がかかります。

Time (タイム) 最初の音程と次の音程が近い場合も離れている場合も同じ時間で音程が変化します。したがって、音程が離れている場合は素早く、音程は近い場合はゆっくり音程が変わります。

- 設定方法 -

1. SETUP ボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。



2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタンを押して GL を選択してください



SETUP ボタンを押しながらHOLD、OCT ボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。

3. GL を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

4. HOLD、OCT ボタンで r (Rate)またはt (Time)を選択してください。



(Rate)



(Time)

5. SETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

キーディレイ

EWI4000sを演奏していてノート・キーで音程を変えるとときに、意図しない余分な音が鳴ってしまうことがある時に調整します。EWI4000sではタッチ・キーによる素早いプレイを実現するために、キーの反応速度を早めに設定してあります。しかし、運指のしかたによってはノートを切り替える際に一瞬意図しない音が鳴ってしまう場合があります。このようなときはキーディレイの設定でキーの反応速度を調整(0~15)することによりスムーズな演奏が行えます。

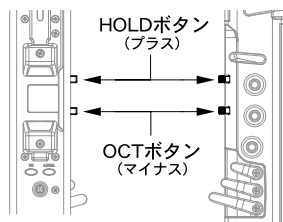
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながら HOLDボタンを押して dL を選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. dLを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に現在設定されている値が表示されます。

4. HOLD, OCTボタンで設定してください。

この時HOLDボタンはプラス(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンはマイナス(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。値を大きくするほどキーの反応が遅くなります。

※ キー・ディレイの値を大きくしすぎると余分な音は発音しなくなりますが、反応が遅くなるため早いフレーズに対応できなくなります。EWIの演奏に慣れてきたら、出来るだけ値を小さくするといいかもしれません。

5. SETUPボタンを押してください。

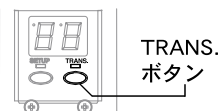
プレイ・モードに戻ります。SETUP、HOLD、OCT以外のボタンをした場合は、変更したキーディレイの値は反映されず、元の設定に戻ります。

移調(トランスポーズ)の設定

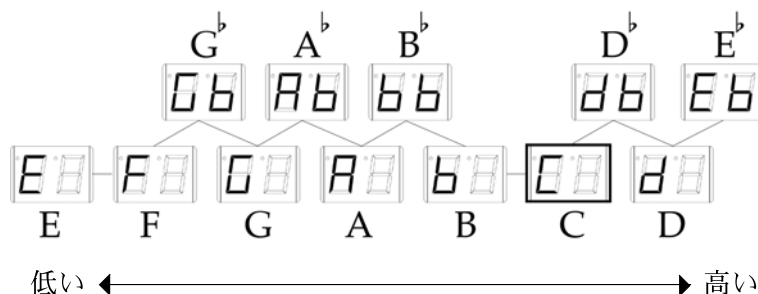
曲にあわせてEWI4000sの音程を移調することができます。トランスポーズ機能を使うと設定した通常の運指でCのノートを押さえたときに、設定したノートが鳴るようにトランスポーズされます。

TRANS.ボタンを押すとLEDが点灯してトランスポーズ機能がオンになり、もう一度押すとオフになります。

TRANS.ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にはトランスポーズの設定値が表示されます。この時、HOLD、OCTボタンで設定値を変更することができます。



設定値はそれぞれ音名を表しています。



※ 移調できる範囲は「C」を基調として、「E」～「C」～「Eb」です。

チューニング (チューン) の設定

EWI4000s全体のチューン(音程)を設定(416Hz~465Hz)します。ほかの楽器と音程を合わせる際に設定します。

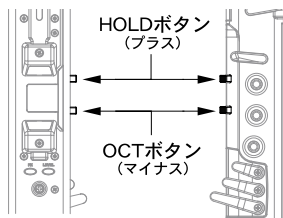
1. SETUPボタンを押してくださいボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながら HOLDボタンを押して tu を選択してください。



SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. tu を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に「40」と表示されます。これは基音となる「A」の音程が440Hzに設定されていることを表しています。



4. HOLD、OCTボタンでチューンを設定してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。416Hz~465Hzの間で設定できます。

5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。

SETUP、HOLD、OCT以外のボタンをした場合は、変更したチューンは反映されず、元の設定に戻ります。

PCから音色をエディットする

EWI4000sの音色は本体でエディットすることはできませんが、専用のエディターソフト「Uniquet EWI4000(本製品付属のCD-ROMに収録)」を使用することで、PC側からEWI4000sの音色やエフェクトのパラメーターを変更することができます。変更した内容はEWI4000sに保持されます。PCとのデータのやり取りにはMIDIを使います。

エディターソフトは弊社ホームページからも今後ダウンロード可能予定です。PCとの接続方法などについては弊社ホームページのサポートページなどもあわせてご覧ください。

<http://www.akai-pro.jp/>

第4章 MIDIコントローラーとして使う

EWI4000sは音源とエフェクターを内蔵しているので、本体だけですぐに演奏を始めることができますが、外部にMIDI音源を用意することで、MIDIコントローラーとして使用することもできます。

■MIDIとは

MIDIとは、メーカー間の壁を越えて、色々な電子楽器間で演奏情報をやり取りするために決められた規格です。

接続にはMIDIケーブルと呼ばれる専用のケーブルが使用されます。

EWI4000sのMIDI OUT端子とMIDI音源のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続することで、EWI4000sの演奏情報(MIDI信号)がMIDI音源に送られ、MIDI音源から音が出るようになります。ただし、MIDIで送られるのはあくまでも演奏情報(MIDI信号)であって、実際のEWI4000sの音そのものが送られているわけではありません。

またMIDIの規格には「MIDIチャンネル」というものがあります。このMIDIチャンネルはMIDIを扱う上で大変重要な概念です。

EWI4000sでMIDI音源を鳴らす場合も、EWI4000sのMIDIチャンネルと、MIDI音源のMIDIチャンネルを必ず同じチャンネルに設定しておかなければなりません。

たとえば、EWI4000sの送信チャンネルが「1」だとすると、音源の受信チャンネルも「1」でなければなりません。MIDIに関する詳しい情報はMIDI規格書や専門書などで学習してください。

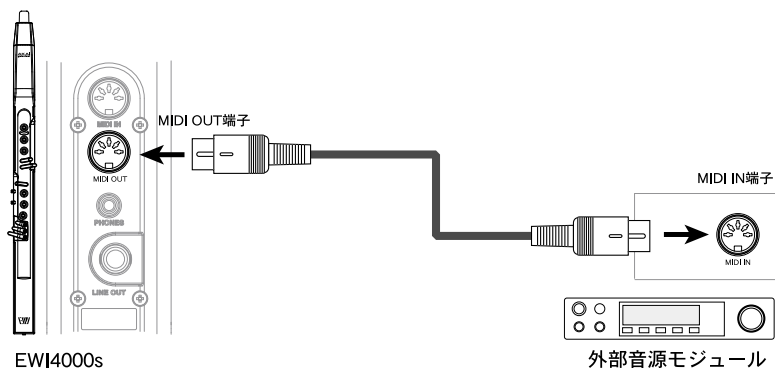
※ EWI4000sは、ノートナンバーやベロシティ情報だけでなく、ボルトメントやサステーンのような、コントロールチェンジの情報も出力します。

■MIDIコントローラーとして使用する際に必要なもの

市販のMIDIケーブル、MIDI音源モジュール、またはMIDIシーケンサーなど。

■接続

EWI4000sのMIDI OUT端子と外部MIDI音源モジュールのMIDI IN端子を市販のMIDIケーブルで接続してください。



■MIDI音源モジュール側の設定

外部からのMIDI信号で音が鳴るように設定してください。受信MIDIチャンネルを「1」に設定してください。演奏したい音色を選んでください。

※ 外部音源モジュールの操作方法についてはその音源の取扱説明書を参照してください。

■EWI4000s側の設定

EWI4000sは初期状態でMIDI情報を出力するように設定されていますので、MIDIケーブルを接続してEWI4000sを演奏すれば、MIDI音源モジュールから音が出るはずです。

- ・ 息の強弱の情報はMIDIコントロールチェンジの07-Volume情報として出力されます。音源側がこれに対応していれば、息の強弱で音量をコントロールすることができます。音源側の設定によっては音量だけでなく音色などをコントロールすることができます。例えばコントロールチェンジ-07でフィルターのカットオフ周波数が変わるように設定すれば、息の強弱で音色がコントロールできるようになります。音源側の設定方法はその音源の取扱説明書を参照してください。
- ・ ベンド・プレートの情報はMIDIピッチベンド情報として出力されます。音源側がこれに対応していれば、EWI4000sでピッチベンドをコントロールできます。ビブラートの情報もピッチベンド情報とともに送られますので、音源側が対応していればビブラートをかけることができます。
- ・ グライドの情報はMIDIコントロールチェンジの65-Portamento(on/off)と05-Portamento timeを使って送信されます。音源側がこれに対応していれば、EWI4000s側からグライド(ポルタメント)をコントロールすることができます。

■プログラムチェンジ

MIDIプログラムチェンジ情報を使って音源側の音色をEWI4000sから変更することができます。操作方法については20ページ「音色の選択」で内部音源の音色を変更する場合と同様です。EWI4000sでプログラムを変更すると該当するMIDIプログラムチェンジ情報が出力されます。

MIDIコントローラーとして使う (応用編)

■MIDIチャンネルの変更

EWI4000sから送信するMIDIチャンネルを設定します。

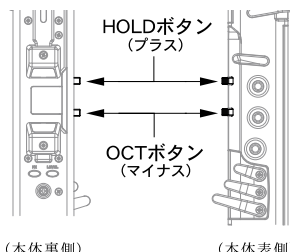
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAdと表示されます。



2. SETUPボタンを押しながら
HOLDボタンを押してCHを選
択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. CHを選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に現在のMIDIチャンネルの設定値が表示されます。

4. HOLD、OCTボタンで設定してください。

この時HOLDボタンは+(数値を一つ増やす)ボタン、OCTボタンは-(数値を一つ減らす)ボタンとして働きます。

5. SETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。SETUP、HOLD、OCT以外のボタンをした場合は、変更したMIDIチャンネルの値は反映されず、元の設定に戻ります。

■ブレス・センサー出力の変更

ブレス・センサーの情報を出力するMIDIコントロールチェンジ情報を設定します。複数のイベントを同時に出力することも可能です。

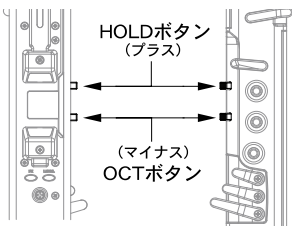
1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押してbSを選択してください。

SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. bS を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に vo と表示されます。設定できるMIDIイベントは以下ようになります。



vo

Volume (07)



EP

Expression (11)



AF

Aftertouch



br

Breath control (02)

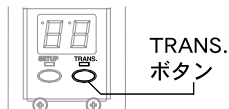


vE

Velocity data

4. HOLD、OCTボタンでMIDIイベントを選択してTRANS.ボタンを押してください。

TRANS.ボタンを押すことでそのイベントを出力するかどうかを選択することができます。出力するイベントにはドットのLEDが点灯します。





(イベントデータを出力する)



(イベントデータを出力しない)

複数のイベントを同時に出力することもできます。vEを選択するとプレスの強弱に応じてMIDIベロシティ値が送信されます。

5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。SETUP、TRANS、HOLD、OCT以外のボタンをした場合は、変更した設定は反映されず、元の設定に戻ります。

■ベロシティ値の設定

プレス・センサーの出力設定でvE(ベロシティ)を選択している場合、息の強弱に応じたベロシティ値が出力されますが、vEを選択していない場合は固定のベロシティ値が送信されます。固定で出力されるベロシティ値を変更することができます。

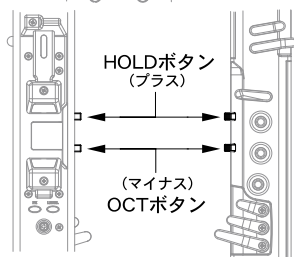


1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して vE を選択してください。
SETUPボタンを押しながらHOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



(本体裏側)

(本体表側)

3. vE を選択したら、SETUPボタンを離してください。



プログラム／データ表示部分に 現在の設定値が表示されます。設定範囲は1～127で、ディスプレイには設定値の下2桁を表示しています。ディスプレイ内のドットは「100」を表しており、例えば、「20」にドットが点灯している場合、設定値は「120」となります。



「20」ドットが点灯していない状態



「120」ドットが点灯している状態

4. HOLD、OCTボタンで値を設定してください。
5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してくださいプレイ・モードに戻ります。

■ビブラート・センサー出力の変更

ビブラート・センサーの情報は通常ピッチバンド情報とミックスされるので、ビブラート・センサーを噛むことで音程に変化を付けてビブラート効果を得ます。ビブラート・センサーの出力をプレス・センサーにミックスしてやることで、音色や音量にビブラート効果をかけることができます。

1. SETUPボタンを押してください。

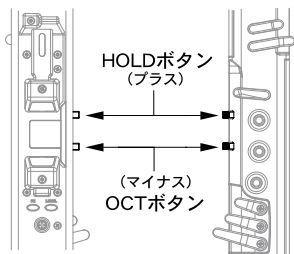
ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。



2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して uS を選択してください。



SETUPボタンを押しながら HOLD、OCTボタンを押すことで、セットアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



3. uS を選択したら、SETUPボタンを離してください。

(本体裏側)

(本体表側)

プログラム／データ表示部分に Pb と表示されます。



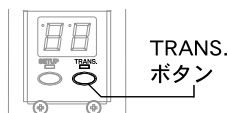
ピッチバンド情報にミックスします。



プレスセンサー情報にミックスします。

4. HOLD、OCTボタンで選択してTRANS.ボタンを押してください。

TRANS.ボタンを押すことでそのイベントを出力するかどうかを選択することができます。出力するイベントにはドットのLEDが点灯します。

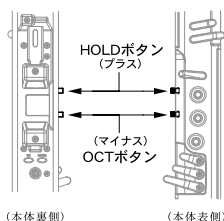


5. 設定が終了したらSETUPボタンを押してください。

プレイ・モードに戻ります。SETUP、TRANS.、HOLD、OCT以外のボタンをした場合は、変更した設定は反映されず、元の設定に戻ります。

■OCTボタンの機能(MIDI接続時)

MIDIコントローラーとして使用しているときもオクターブ機能が使用可能です。オクターブ機能がオンのとき、演奏しているノートの1オクターブ下のノート情報が同時に出力されます。オクターブ機能は初期設定ではOCTボタンに割り当てられていません。オクターブ機能を使用するには最初にOCTボタンにオクターブ機能を割り当てる必要があります。オクターブ機能の割り当て方は内部音源を使って演奏する場合と同様です。割り当て方法については29ページ「オクターブ機能をOCTボタンに割り当てる」をご覧ください。



■HOLDボタンの機能(MIDI接続時)

MIDIコントローラーとして使用しているときもホールド機能が使用可能ですが、内蔵音源を使用しているときと若干仕様が異なります。MIDI使用時のホールド機能には以下の2種類があり、セットアップ・モードで選択することができます。



MIDIコントロールチェンジ - 66のソステヌート情報を使用します。レガートで演奏した場合に最初のノート情報の後にソステヌート情報を出力するので、最初のノートだけがホールドされて以降のノートはホールドされません。息を止めるとソステヌートもオフになります。



MIDIコントロールチェンジ - 64のサスティーン情報を使用します。レガートで演奏した場合にすべてのノートがサスティーンされます。息を止めるとオフになります。

■ホールド機能の設定

ホールド機能を使用するとき、MIDIコントロールチェンジ-66のソステヌート情報を使用するか、MIDIコントロールチェンジ-64のホールド情報を使用するかを選択します。



1. SETUPボタンを押してください。

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分に Ad と表示されます。

2. SETUPボタンを押しながらHOLDボタンを押して Ho を選択してください。

3. Ho を選択したら、SETUPボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分に現在の設定が表示されます。



4. HOLD、OCTボタンで So または Su を選択してください。



OFを選択するとホールド機能は使用できなくなります。



5. SETUPボタンを押してくださいプレイ・モードに戻ります。

■MIDI ポルタメントON/OFF 情報の出力

通常、グライドセンサーに触れるとMIDI コントロールチェンジ情報の65番、ポルタメント・オン・メッセージが出力され、センサーに触れている量に応じてポルタメント・タイム情報が出力されます。しかし、接続する音源によってはポルタメント・オン情報を受信することで音源の状態が変わって、その後ポルタメント情報を正しく受信できなくなるものがあります。このような場合は、グライドセンサーを触ってもポルタメントの情報が出ないように設定することで問題を回避することができます。

1. SETUP ボタンを押してください

ボタンを押している間、プログラム／データ表示部分にAd と表示されます。



SETUPボタン

2. SETUP ボタンを押しながらHOLD ボタンを押して Po を選択してください。

SETUP ボタンを押しながらHOLD,OCT ボタンを押すことで、セツトアップ・モードで設定する項目を選択することができます。



3. Po を選択したら、SETUP ボタンを離してください。

プログラム／データ表示部分にon と表示されます。



ポルタメント・オン情報を出力します。



ポルタメント・オン情報を出力しません。

4. 設定が終了したらSETUP ボタンを押してください

プレイ・モードに戻ります。

内部に保存している設定をリセットする

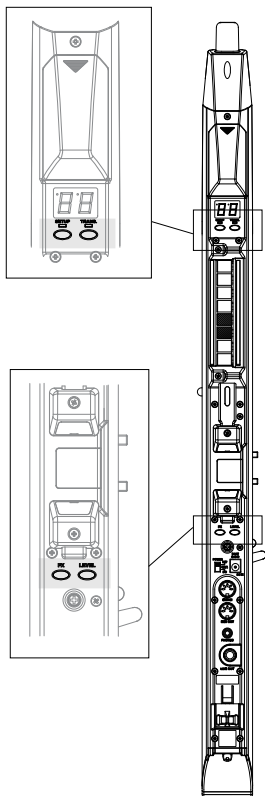
LEVEL、FX、SETUP TRANSボタンを押しながら電源を入れると、内部に保存している設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

本体が保持しているのは以下の設定項目です。

dL : Key delay:02
 CH : Midi channel:01
 tu : Tune:40
 bS : Breath sensor:Only expression is set.
 vS : Vibrato sensor:Only expression is set.
 vE : Velocity:120
 Po : Portamento:on
 Oc : Octave key:OF
 Ho : Hold key:OF
 GL : Glide:r

 Level master:30
 Level preset:30

 Reverb master:21
 - Effect preset -
 CH : Chorus:OF
 dL : Delay:OF
 rb : Reverb:21



仕様

■ EWI4000s 主な仕様

形式	エレクトリック・ウインド・インストルメント
運指	サキソフォン準拠、及びEWI方式
センサー	ノートキー：タッチセンス式 マウスピース： プレス：エアプレッシャーレベル方式 バイト：プレッシャーレベル方式 バンド・アップ／ダウン： タッチセンス式 グライド・プレート： タッチセンス式 オクターブ・ローラー： タッチセンス式 プログラムキー ： タッチセンス式
ボタン	LEVELボタン、FXボタン、SETUPボタン、TRANSPOSEボタン、OCTボタン、HOLDボタン
感度調整	プレス・センス、プレス・アジャスト、バンド・ワイズ、バンド・アジャスト グライド・タイム、グライド・アジャスト、ビブラート・アジャスト
端子	ラインアウト x 1 (1/4フォンジャック) ヘッドホンアウト x 1 (デュアル・モノ、ステレオ・ミニ・ジャック 最小負荷インピーダンス32Ω) "MIDI IN, MIDI OUT 各1 (5ピンDIN)"
他	脱着式ケーブル・クラッチ
電源	単三アルカリ (または充電式) 電池 4 本 (電池使用時：連続動作 約8時間 ※ヘッドフォン使用時は除く)
外形寸法	670.5mm (長さ) x 61mm (幅) x 69.0mm (厚み)
重量	874g (電池別)
付属品	使用説明書、スリンガー、単三乾電池 x 4本、クリーニングクロス、マウスピース・カバー CD-ROM (EWI4000s 専用音色エディットソフト「Uniquist EWI4000s」を収録)

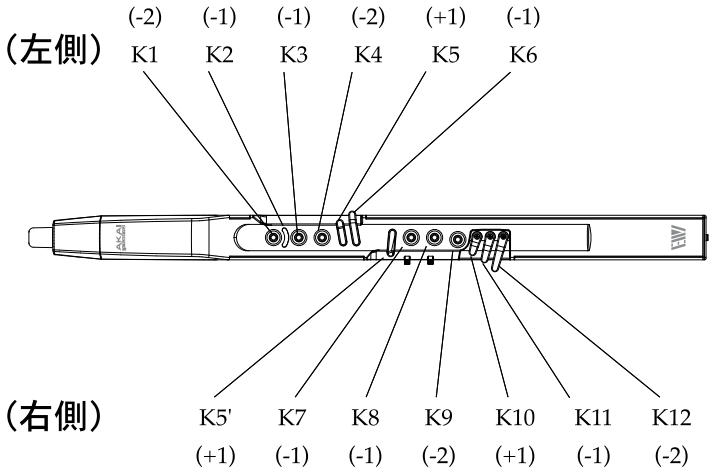
■ 音源部

音源方式	アナログモデリング・シンセサイザー
ボイス	2 (オクターブ/ホールド機能使用時)
制御音域	8オクターブ
音源	2 オシレーター、2 フィルター 波形:ノコギリ波、三角波、パルス波(幅可変) ノイズ・ジェネレーター、フォルマントフィルター
エフェクト	リバーブ、ディレイ、コーラス
音色数	100
ディスプレイ	7セグメントLED x 2桁
機能	トランスポーズ、チューン、ノートホールド、オクターブ、プログラムチェンジ、キーディレイ

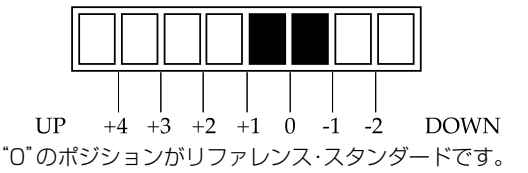
※ 規格や外観などは改良のため、予告なく変更することがあります。

運指表

■ノート・キー



■オクターブ・シフト・ローラー



















EWI4000sにおける「キー操作」と「オクターブ・シフト・ローラーのタッチポジション」によりEWI4000s本体のMIDI OUT端子から出力するMIDIノートナンバー範囲を書きに示します。


キー操作を加えるとEWI4000sは最低音[A#:22]から最高音[D#:111]という広い音域でMIDI対応の楽器を演奏できます。

オクターブ・シフトローラーのタッチ・ポジション	MIDIノート・ナンバーの範囲
- 2	24 - 36
- 1	36 - 48
0	48 - 60
+ 1	60 - 72
+ 2	72 - 84
+ 3	86 - 96
+ 4	96 - 108











※ MIDIノートナンバー[60]が「中央のド(C)」に該当します。

黒く塗りつぶしてあるKEYをタッチして下さい。

NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)						OCTAVE SHIFT ROLLERS
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K5'	K7	K8	K9	K10	K11	
 A [#]	●	⌋	●	●	◻	▬	◻	●	●	●	◻	▬	▬
 B	●	⌋	●	●	◻	▬	◻	●	●	●	◻	◻	▬
 C	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	●	●	●	◻	◻	▬
 C [#]	●	⌋	●	●	▬	◻	◻	●	●	●	◻	◻	▬
 D	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	●	●	●	◻	◻	◻
 D [#]	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	●	●	●	▬	◻	◻
 E	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	●	●	◻	◻	◻	◻
 F	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	●	◻	◻	◻	◻	◻
 F [#]	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	◻	●	◻	◻	◻	◻
 G	●	⌋	●	●	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 G [#]	●	⌋	●	●	◻	◻	▬	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 A	●	⌋	●	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 A [#]	●	⌋	●	◻	◻	▬	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 B	●	⌋	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 C	◻	⌋	●	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
 C [#]	◻	⌋	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻
D	◻	⌋	◻	◻	▬	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻	◻


UP +1 DOWN

替指例

NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)						OCTAVE SHIFT ROLLERS	
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K5'	K7	K8	K9	K10	K11		K12
 C [#]	●	⌋	●	●	○	○	○	●	●	●	○	⌋	○	 UP +2 DOWN
 C	●	⌋	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○	⌋	
 B	●	⌋	●	●	○	○	○	●	●	●	○	⌋	⌋	
 B ^b	●	⌋	●	●	○	⌋	○	●	●	●	○	⌋	⌋	
 B ^b	●	⌋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	 UP +1 DOWN
 C	○	⌋	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
 C [#]	○	⌋	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	 UP 0 DOWN

これはほんの一例にすぎません。
その他の替指については、サキソフォンなどの教則本を参考に各自研究してください。

AKAI Professional
Model : EW4000s

Date : October, 2005
Version : 1.0

MIDI Implementation Chart

Function	***	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default	1 - 16	1 - 16	Memorized
	Changed	1 - 16	1 - 16	
Mode	Default	3	3	2 notes polyphony
	Messages	X	O (All note off)	
	Altered	*****	*****	
Note Number		22 - 111	22 - 111	
	True Voice	(-8 ~ +3 transposed) (*1)	12 - 127	
Velocity	Note on	O: 9n, v=1 - 127 (*2)	O: 9n, v=1 - 127	
	Note off	O: 8n, v=64	O: 8n or 9n, v=0	
After Touch	Key's	X	X	
	Ch's	O	O	
Pitch Bender		O	O	
Control Change	2	O	O	Breath Controller Portament Time Volume Expression Sustain Portamento Sostenuto
	5	O	O	
	7	O	O	
	11	O	O	
	64	O	O	
	65	O	O	
	66	O	O	
Program Change		O (0 - 99)	O (0 - 99)	
	True #	*****	*****	
System Exclusive		O	O	
System Common	: Song Position	X	X	
	: Song Select	X	X	
	: Tune	X	X	
System Real Time	: Clock	X	X	
	: Commands	X	X	
Aux Messages	: Local on/off	X	X	
	: All Note Off	O	O	
	: Active Sense	X	X	
	: Reset	X	X	

Notes: (*1): Varied within a range of -8 ~ +3 depending on the transposition settings.
(*2): A fixed value within a range of 1 ~ 127, or variable values by breath control.

Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO
Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO

O : YES
X : NO

故障かな？と思ったら...

●音が出ない

- ・ミキサーやヘッドホンが正しく接続されているか確認してください。
(8ページ、「接続のしかた」)
- ・電源が入っているか、電池が切れていないか確認してください。
(7ページ、「電池の入れ方」 「ACアダプター」)
- ・LEVELの設定がゼロになっていないか確認してください。
(25ページ、「音量の調整」)
- ・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
(14ページ、「感度調整」)

●音程が変わらない

- タッチセンス感度調整を確認してください。
(18ページ、「タッチセンス感度調整」)

●何もしないのに音が出たままになる

- ・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
(14ページ、「感度調整」)

●他の楽器と音程が合わない

- ・チューンの設定を確認してください。
(34ページ、「チューンの設定」)
- ・バンド・センサーの感度調整を確認してください。
(16ページ、「バンド・センサーの調整」)

●強弱がつかない

- ・ブレスの感度調整は正しいか確認してください。
(15ページ、「感度調整」)

●音程がすぐに変わらない

- ・グライド・センサーの調整が正しいか確認してください。
(17ページ、「グライド・センサーの調整」)



EWI 4000s

ELECTRIC WIND INSTRUMENT

オペレーティングシステム・バージョン2.0

日 本 語 版

► 追補マニュアル

- 目次 -

この追補版について	1
新しいグローバルコマンド	1
All Note Off	1
MIDI Panic	1
メニューの構造について	2
オクターブ機能(OCTボタン)	4
オクターブ機能を設定する	4
オクターブ機能のサブメニュー	4
OF (off) オフ	4
oc (octave) オクターブ	4
In (Interval) インターバル・モード	5
インターバル・モードを使う	5
dn (preset down) プリセット・ダウン	5
CC (Continuous Controller) コンティニュアス・コントローラー	5
コンティニュアスコントローラーを設定する	5
コンティニュアスコントローラーのオプション	6

ホールド機能(HOLDボタン) 7

ホールド機能を設定する 7

オクターブ機能のサブメニュー 7

OF (off) オフ.....7

LE (Legato Hold) レガート・ホールドモード.....7

レガート・ホールドモードを使う.....7

nL (Non Legato Hold) ノンレガートホールドモード.....8

ノンレガート・ホールドモードを使う.....8

Su (Sustain Hold) サスティン・ホールドモード.....8

サスティンホールド・モードを使う.....8

UP (preset up) プリセット・アップ.....8

CC (Continuous Controller) コンティニュアス・コントローラー.....9

コンティニュアスコントローラーを設定する.....9

コンティニュアスコントローラーのオプション.....9

ベンド・コントロール (ベンドセンサー) 11

ピッチベンド・アップの設定する 11

ピッチベンド・アップのサブメニュー 11

Pb (Pitch Bend) ピッチベンド・イネーブル..... 11

ピッチベンドアップ機能のオン／オフ..... 11

CC (Continuous Controller) コンティニューアス・コントローラー..... 12

コンティニューアス・コントローラー機能のオン／オフ..... 12

コンティニューアス・コントロールナンバーの変更..... 12

ピッチベンド・ダウンの設定する 13

ピッチベンド・ダウンのサブメニュー 13

Pb (Pitch Bend) ピッチベンド・イネーブル..... 13

ピッチベンドダウン機能のオン／オフ..... 13

CC (Continuous Controller) コンティニューアス・コントローラー..... 13

コンティニューアス・コントローラー機能のオン／オフ..... 13

コンティニューアス・コントロールナンバーの変更..... 14

ポルタメント機能 (グライド・プレート) 15

ポルタメント・モードに入る 15

ポルタメント・モードのオプション 15

PS (Pedal Switch) ペダルスイッチ..... 15

ペダルスイッチ機能のオン／オフ..... 15

ペダルスイッチのコントロールの設定..... 16

CC (Continuous Controller) コンティニューアス・コントローラー..... 16

コンティニューアス・コントローラー機能のオン／オフ..... 16

コンティニューアス・コントロールナンバーの変更..... 17

キー・プログラムチェンジ 18

キー・プログラムチェンジ・モードに入る 18

キー・プログラムチェンジのオプション 18

OF (off) オフ 18

OC (Octave) 1オクターブ内12音色 18

AL (All) 全てのキー96音色 18

フィンガリングモード 19

フィンガリング・モードの設定 19

フィンガリング・モードのオプション 19

EI (EWIスタンダード) 19

Ev (EVIフィンガリング) 19

Er (EVIフィンガリング+反転オクターブローラー) 19

EWI4000s EVI フィンガリングモード運指表 20

ノートキー 20

オクターブシフトローラー 20

ペダルスイッチ機能のオン／オフ 15

ペダルスイッチのコントロールの設定 16

EWI4000s EVI フィンガリングモード運指表 20

EVIフィンガリングモード詳細 21

右手 21

左手 21

EVI の基本的な運指 22

トリル・キーとは？ 23

EWI4000s OSアップデートの方法 24

OSのバージョンアップに必要な物	24
接続のしかた	25
MIDIインターフェース側の準備	25
EWI4000s側の準備	25
EWI4000sへOSファイルを送信する	26

この追補版について

AKAI professional EWI4000sを日頃からご愛用いただき、誠にありがとうございます。

この度、エレクトリック・ウィンド・インストゥルメント「EWI4000s」は、より完成された楽器としての表現力と使いやすさを求めて、オペレーティング・システム(OS)をバージョン2にアップデートする運びとなりました。変更されたユーザインターフェースに関する点などは、この追補マニュアルに全て記載されております。

※お使いのEWI4000sのOSがバージョン1の場合、EWI4000s本体をアップデートする必要があります。アップデート方法は本マニュアルのP.24「EWI4000s OS アップデートの方法」をご覧ください。

オペレーティング・システム・バージョン2.0はEWI4000sに多くの機能を追加します。これらの新機能はEWI自体のパフォーマンスと、MIDIによるコントロール性能を大幅に拡張するものです。そのためエディットメニューの構成を若干変更し、新たな項目を設けた上で、その箇所において新機能の設定をしたり、ある特定スイッチやキーに対しての機能変更が出来るもの等がありますので、是非この追補マニュアルの内容を注意深く読んでいただければと思います。

この度のEWI4000sバージョン2.0ソフトウェアによってもたらされた多くの新機能はEWIのエディットメニューを拡張することで実現されています。新たなエディット・メニュー項目の全ては[SETUP]ボタンを押して簡単にアクセスできるよう、メニュー構成を変更いたしました。(エディットメニューの階層は次のページ「メニューの構造について」をご参照下さい。)

ただ、以前のバージョンでは、[SETUP]を押すと、常に「Ad」メニュー(アジャスト)から開始されておりましたが、この度のバージョン2.0ソフトウェアは、前回操作時のエディット・メニュー(最後にエディットしたメニュー)を本体内に記憶するように出来ており、[SETUP]ボタンを押した時には、もう一度そのメニューから編集を開始し、素早くパラメータを変更できるようになりました。

新しいグローバルコマンド

・ALL Notes Off

どの状態の時でも[SETUP]ボタンを押すことにより「All Notes Off (オール・ノートオフ・メッセージ)」を送信することが出来ます。

・MIDI Panic

[FX]ボタンと[LEVEL]ボタンの同時押しで、現在選択しているMIDIチャンネルの各MIDIノート(0-127)に対してMIDI Panic(リセット・オール・コントローラーとオール・ノートオフ・メッセージ)を送信します。

メニューの構造について

EWI4000s OS バージョン2.0では新たな機能の追加により、メニューの階層が一部変更されました。以下の表はバージョン2.0において変更された階層、及び追加された部分やパラメータの設定範囲、デフォルト値について表記してあります。EWI4000sをエディットする際には、このリストを参考にしながら新しい階層形式に慣れてください。

メニュー・アイテム
サブメニュー
サブメニュー・オプション

パラメータ	設定範囲	標準設定値(デフォルト)
Rd アジャスト		
dL キー・ディレイ	0 ~ 15	7
CH MIDIチャンネル	1 ~ 16	1
tU チューニング	16 ~ 65	40
bS プレス・センサー (プレス・センド)		
uO ボリューム		
RF アフター・タッチ		ON(ENABLED)
br プレス		ON(ENABLED)
EP エクスプレッション		
uE ベロシティ		ON(ENABLED)
uS ビブラート・センサー		
bo プレス		ON(ENABLED)
Pb ピッチ・ベンド		
uE ベロシティ・スタティック	1 ~ 127	120
Pa ボルタメント		
PS ペダル・スイッチ	0 ~ 99	OFF, CC#65
CC コンティニユアス・コントローラー	0 ~ 99	CC#05
0c オクターブ		
OF オフ		
oc オクターブ		デフォルト設定
In インターバル・モード		
dn プリセット・ダウン/デクリメント		
CC コンティニユアス・コントローラー		CC#69
Cn コントローラー・ナンバー	0 ~ 99	
dR MIDIデータバリュー	0 ~ 127	
LR ラッチング	ON/OFF	ON (ラッチタイプ)

パラメータ		設定範囲	標準設定値(デフォルト)
Ho	ホールド		
	Of オフ		
	Le レガート		デフォルト設定
	nL ノン・レガート		
	Su サステイン		
	UP プリセット・アップ/インクリメント		
	CC コンティニューアス・コントローラー		CC#64
	Cn コントローラー・ナンバー	0 ~ 99	
	dR MIDIデータバリュー	0 ~ 127	
	LR ラッチング	ON/OFF	ON (ラッチタイプ)
GL	グライド		
	re レイト		デフォルト設定
	ti タイム		
Pu	ピッチベンド・アップ		
	Pb ピッチベンド・イネーブル	ON/OFF	ON
	CC コンティニューアス・コントローラー	0 ~ 99	CC#48, OFF(DISABLE)
Pd	ピッチベンド・ダウン		
	Pb ピッチベンド・イネーブル	ON/OFF	オン
	CC コンティニューアス・コントローラー	0 ~ 99	CC#49, OFF(DISABLE)
dP	キー・プログラム		
	Of オフ		
	OC オクターブ		デフォルト設定
	RL オール		
Fn	フィンガリング		
	EI EWI		デフォルト設定
	EU EVI		
	En EVI リバース		
UP	アップデート		



※ 最新のメニュー構造は、本マニュアルに含まれるV.2.4セクションをご参照下さい。

オクターブ機能(OCTボタン)

オクターブ機能では、[OCT]ボタンを使って、演奏している音に対して1オクターブ下の音を追加することが出来ましたが、バージョン2ではこの追加する音に任意の音程を指定する事が可能になりました。また、[OCT]ボタンにMIDIコントロールチェンジを割り当て、送信する事も可能です。

オクターブ機能を設定する



-  1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。
[SETUP]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン/[OCT]ボタンを使って、プログラム・データ表示部に「Oc」と表示されるまで操作します。
-  2) 「Oc」と表示されたら[SETUP]ボタンを離します。
[SETUP]ボタンを離すと、オクターブ機能に関するサブメニューの階層に移動します。

オクターブ機能のサブメニュー

オクターブ機能のサブメニューには、設定に必要な5項目のサブメニューがあります。サブメニューの階層内で、[HOLD]ボタン/[OCT]ボタンを使って、サブメニューを切り替える事が出来ます。サブメニューから通常の演奏モードに移動するときにはもう一度[SETUP]ボタンを押して下さい。

Oc オクターブ			
OF	オフ		
oc	オクターブ		デフォルト設定
fn	インターバル		
dn	プリセット・ダウン/デクリメント		
cc	コンティニューアス・コントローラー		CC#69
cn	コントローラー・ナンバー	0 ~ 99	
dr	MIDI・バリュース	0 ~ 127	
lr	ラッチング	ON/OFF	ON



OF - (Off) オフ

「OF」を選択すると[OCT]ボタンの機能は無効になります。



oc - (Octave) オクターブ

デフォルト設定

「oc」は通常のオクターブ・モードで、このモードがデフォルトの設定となっています。演奏中に[OCT]ボタンを押す事でEWI4000sは演奏中のボイスに対して1オクターブ下の2ボイス目を足して発音します。



In - (Interval) インターバル・モード

「In」は「インターバル・モード」です。「In」を選択した場合は、[OCT]ボタンを押した時に、演奏中の音に対して設定した度数(音程の間隔)を保持したまま2番目のボイスを足して発音します。

■インターバル・モードを使う

1. まず最初に基本に鳴る音を吹きつけます。
2. 発音した状態をキープしたまま[OCT]ボタンを押します。
3. 次に重ねたい2ボイス目の音を吹きます。

最初の音と2番目に重ねた音程の間隔が維持され、常に演奏した音程に対して、この間隔が維持されたまま2番目の音として重ねて発音され続けます。



dn - (preset down) プリセット・ダウン

「dn」を選択した場合はプリセットナンバーを1つ下げるボタンとしてのみ機能します。



CC - (Continuous Controller) コンティニユアス・コントローラー

「CC」を選択した場合は、[OCT]ボタンを使ってMIDIコントロール・チェンジの情報を送信させることが出来ます。[OCT]ボタンによるMIDIスイッチとしてのの振るまいとして「ラッチ/アンラッチ」としての動作を設定する事も可能です。

■コンティニユアス・コントローラーを設定する

1. サブメニューで「CC」を選択してください。
[SETUP]ボタンと[TRANS]ボタンの下のLEDが点滅を開始します。
2. [TRANS]ボタンを押します。
これでコンティニユアス・コントローラーの設定に関するオプションの階層に移動します。
3. [TRANS]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン、[OCT]ボタンを使って設定に必要なオプションを選択します。

→ 次のページへ

- コンティニュース・コントローラーのオプション -



CONTROLLER NUMBER(コントローラー・ナンバー):

デフォルト設定 = MIDI CC#64

[OCT]ボタンを押した時に送信するMIDIコントロールナンバーを表示します。



MIDI DATA VALUE(MIDIデータバリュー):

[OCT]ボタンを押して送る時に送信されるコントロールナンバーの「値」を設定します。EWI4000sは通常のMIDIの値である「0～127」を送信できます。

※ プログラム・データ表示部が**100を超える値**を表示する場合は表示部の**上部中央の「点」が点灯**します。



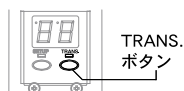
LATCHING (ラッチング): デフォルト設定=オン

[OCT]ボタンをMIDIコントロールチェンジのスイッチとして使用する際、その動作の仕方として、一般的なフットスイッチなどにみられる「ラッチ・タイプ」もしくは「アンラッチ・タイプ」としての動作を設定できます。

ON (ラッチ) [OCT]ボタンを押している間はON。離すとOFF。

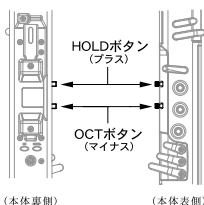
OFF (アンラッチ) [OCT]ボタンを一度押すとONの状態を維持。もう一度押す事でOFF。

3. エディットしたいオプションの画面で
[TRANS]ボタンを離すと決定です。



4. プログラム・データ表示部に選択したオプションのパラメータが表示されます。

[HOLD]/[OCT]ボタンを使ってパラメーターをセットしてください。



5. エディットを終了したいときは
[SETUP]ボタンを押します。

サブメニューの階層に戻ります。



ホールド機能(HOLDボタン)

ホールド機能にもいくつかの新たな機能が追加されました。

ホールド機能を設定する



1



1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。



[SETUP]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタンと[OCT]ボタンを使ってプログラム・データ表示部に「Ho」と表示されるまで操作します。

2



2) 「Ho」と表示されたら[SETUP]ボタンを離します。

[SETUP]ボタンを離すと、ホールド機能に関するサブメニューの階層に移動します。

ホールド機能のサブメニュー

ホールド機能のサブメニューには、設定に必要な6項目のサブメニューがあります。サブメニューの階層内で、[HOLD]ボタン/[OCT]ボタンを使って、サブメニューを切り替える事が出来ます。サブメニューから通常の演奏モードに移動するときはもう一度[SETUP]ボタンを押して下さい。

Ho	ホールド		
OF	オフ		
LE	レガート		デフォルト設定
nL	ノン・レガート		
Su	サステイン		
UP	プリセット・アップ/インクリメント		
CC	コンティニュー・コントローラー		CC#64
Ln	コントローラー・ナンバー	0 ~ 99	
dR	MIDIパラメータ/バリュー (設定値)	0 ~ 127	
LR	ラッチング	ON/OFF	オン



OF - (OFF) オフ

「OF」を選択すると[HOLD]ボタンの機能は無効になり、押しても何も効果がありません。



LE - (Hold Mode, legato)レガート・ホールドモード

デフォルト設定

「LE」は通常のホールド・モード(レガート)になります。[HOLD]ボタンを押す事で、このモードが有効になり、もう一度押すとモード解除です。

■レガート・ホールドモードを使う

1. [HOLD]ボタンを押して、演奏を始めて下さい。

演奏した時の第1音目のみを保ったまま(ホールドしたまま)、第2音目以降の音が(単音で)重なり続けます。第2音目以降の音は、通常演奏時と同じ発音状態となり、通常通りの感覚で演奏ができます。(その際、各ノートの最後にはMIDIノート・オフ・メッセージを出力)。

→ 次のページへ

2. 息を吹き込むのをやめると、ホールドして発音し続けていた第一音目の発音が停止します。

また新しいフレーズを吹き始めると、そのフレーズの最初の音がホールドされたまま、第2音目以降が重なって演奏されます。



nL - (Hold Mode, non-legato) ノンレガート・ホールドモード

「nL」を選択する事で「ノンレガート・ホールドモード」になります。ホールドし続ける第一音目の発音停止は、息の吹き込みに関係なく、[HOLD] ボタンをもう一度押す事で行うという点が前述のレガート・ホールドと違う点です。

■ノンレガート・ホールドモードを使う

1. [HOLD] ボタンを押し、演奏を初めて下さい。

演奏した時の第1音目のみがホールドされたまま、第2音目以降の音が(単音で)重なり続けます。第2音目以降の音は、通常演奏時と同じ発音状態となり、通常通りの感覚で演奏ができます(その際、各ノートの最後にはノート・オフ・メッセージを出力)。

2. [HOLD] ボタンをもう一度押すと、ホールドし続けていた第一音目の発音が停止します。

再び「ノンレガート・ホールドモード」で新しいフレーズを吹き始めたい場合は、もう一度[HOLD] ボタンを押し演奏を開始して下さい。



Su - (Sustain) サスティン・ホールドモード

「Su」を選択する事で「サスティン・ホールドモード」になります。

このモードは前述のレガート・ホールドモードに似ていますが、このサスティン・ホールドモードを選択した場合、EWI4000sのMIDI OUT端子に接続された外部音源モジュールなどに対して「MIDIサスティン情報」を送信します。フレーズの吹き始め(息を吹き込んだ時)に「MIDIサスティンON」を、フレーズの吹き終わり(息を吹き込むのを止めた時)に「MIDIサスティンOFF」を送信します。

■サスティン・ホールドモードを使う

使い方は「レガートホールド・モード」を参考にして下さい。



UP - (Preset Up/Increment) プリセットUP

「UP」を選択する事で「サスティン」「ソステヌート」の機能はオフになり[HOLD] ボタンはプログラムアップボタンとして機能するようになります。



CC - (Continuous Controller) コンティニユアス・コントローラー

「CC」を選択した場合は、[HOLD]ボタンを使ってMIDIコントロール・チェンジの情報を送信させることが出来ます。[HOLD]ボタンによるMIDIスイッチとしての振るまいとして「ラッチ/アンラッチ」としての動作を設定する事も可能です。

■コンティニユアス・コントローラーを設定する

1. サブメニューで「CC」を選択してください。

[SETUP]ボタンと[TRANS]ボタンの下のLEDが点滅を開始します。

2. [TRANS]ボタンを押します。

これでコンティニユアス・コントローラーに関するオプションの階層に移動します。

3. [TRANS]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン、[OCT]ボタンを使って設定に必要なオプションを選択します。

- コンティニユス・コントローラーのオプション -



CONTROLLER NUMBER(コントローラー・ナンバー):
デフォルト設定 = MIDI CC#64

[HOLD]ボタンを押した時に送信するMIDIコントロールナンバーを設定します。



MIDI DATA VALUE(MIDIデータバリュー):

[HOLD]ボタンを押している時に送信されるコントロールナンバーの「値」を設定します。EWI4000sは通常のMIDIの値である「0～127」を送信できます。

※ 100を超える値をプログラム・データ表示部が表示している場合は上部中央の「点」が点灯します。



LATCHING (ラッチング): デフォルト設定=ON

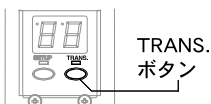
[HOLD]ボタンをMIDIコントロールチェンジのスイッチとして使用する際、その動作の仕方として、一般的なフットスイッチなどにみられる「ラッチ・タイプ」もしくは「アンラッチ・タイプ」としての動作を設定できます。

ON (ラッチ) [HOLD]ボタンを押している間はON。離すとOFF。

OFF (アンラッチ) [HOLD]ボタンを一度押すとONの状態を維持。もう一度押す事でOFF。

→ 次のページへ

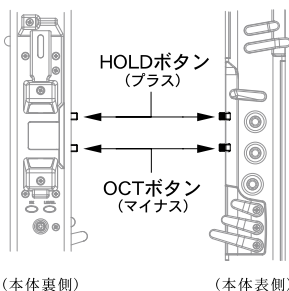
4. エディットしたいオプションの画面で
[TRANS]ボタンを離すと決定です。



5. プログラム・データ表示部に選
択したオプションのパラメータ
が表示されます。

[HOLD]/[OCT]ボタンを使ってパ
ラメータをセットしてください。

6. エディットを終了したいときは
[SETUP]ボタンを押します。



ベンド・コントロール

ベンドのアップ／ダウン・コントローラーに、ピッチベンドデータ(と、もしくは)MIDIコンティニュアス・コントロールメッセージをアサインし、送信することが出来ます。アップ&ダウンそれぞれに対して個別に独立した設定が可能です。

これにより外部MIDI音源モジュールやソフトシンセなどをEWI4000sでコントロールする際、より表現力豊かな演奏が可能になるでしょう。

ベンドセンサーの設定は「アップ」と「ダウン」別々のメニューとして用意してあります。

ピッチベンド・アップの設定をする



1



1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。



[HOLD]ボタン／[OCT]ボタンを使って、プログラム・データ表示部に「PU」(Pitch Bend UP の意味)と表示れるまで操作します。

2



2) 「PU」と表示させたら[SETUP]ボタンを離します。

[SETUP]ボタンを離すと、ピッチベンド・アップ機能に関するサブメニューの階層に移動します。

ピッチベンド・アップのサブメニュー



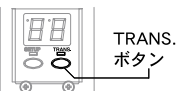
Pb - (Pitch Bend) ピッチベンド・イネーブル

MIDIピッチベンド・メッセージ送信の有効無効を設定できます。もしこれを無効にした場合、演奏中にピッチベンド・アップセンサーに触れてもMIDIピッチベンドメッセージを送信しません。

■ピッチベンド・アップ機能のオン／オフ (デフォルト設定=オン)

1) 「Pb」表示中のとき、[TRANS]ボタンを押すことでMIDIピッチベンド・メッセージ送信の有効無効を選択できます。

プログラム／データ表示部の「P」と「b」の間の小さな点が点灯します。この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。



2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「P」と「b」の間の小さな点が消え、ピッチベンド・アップ機能が無効となります。

→ 次のページへ

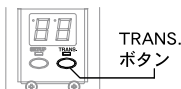


CC - (continuous controller)

ピッチベンドアップセンサーでMIDIコンティニユアス・コントローラー情報を出力するときは、このオプションで設定します。

■コンティニユアス・コントローラー機能のオン／オフ (デフォルト設定=オフ)

- 1) サブメニューが「C C」表示中のとき、
[TRANS]ボタンを押すことでMIDIコンティニユアス・コントローラー・メッセージ送信の有効無効を選択できます。



プログラム／データ表示部の「C」と「C」の間の小さな点が点灯します。
この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。

- 2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「C」と「C」の間の小さな点が消え、コントローラー機能が無効となります。

■コンティニユアス・コントロールナンバーの変更 (デフォルト=48)

- 1) コンティニユアス・コントローラー機能を有効な状態にします。

前述の「コンティニユアス・コントローラー機能のオン／オフ」を参考にし、この機能を有効にしておいて下さい。

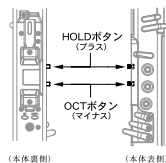
- 2) プログラム／データ表示部の「C」と「C」の間の点が点灯している事を確認下さい。

点灯していると送信可能な状態です。[TRANS]ボタンを再び押すことで「無効」になります。

※ [TRANS]ボタンを押したままにするとグライド・プレートから送信される「MIDI CCナンバー」が表示されます。

- 3) [TRANS]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン、[OCT]ボタンを使ってCCナンバーの数値を増減できます。

数値を決定する場合は目的の数値を表示されている時に[TRANS]ボタンを離して下さい。



注意: コントロールナンバーのセットをする際に、コンティニユアス・コントローラー機能を「オフ」にしてしまいがちです。コントロールナンバーをセットした後はプログラム・データ表示部の「C」と「C」の間の点が点灯していることをご確認ください。

ピッチベンド・ダウンの設定をする

Pd



- 1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。
[HOLD]ボタン/[OCT]ボタンを使って、プログラム・データ表示部に「Pd」(Pitch Bend Down の意味)と表示れるまで操作します。



- 2) 「Pd」と表示させたら[SETUP]ボタンを離します。
[SETUP]ボタンを離すと、ピッチベンド・ダウン機能に関するサブメニューの階層に移動します。

ピッチベンドダウンのサブメニュー

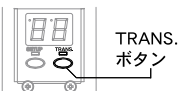


Pb - (Pitch Bend) ピッチベンド・イネーブル

MIDIピッチベンド・メッセージ送信の有効無効を設定できます。もしこれを無効にした場合、演奏中にピッチベンドダウンセンサーはMIDIピッチベンドメッセージを送信しないでしょう。

■ピッチベンド・ダウン機能のオン/オフ (デフォルト設定=オン)

- 1) 「Pb」表示中のとき、[TRANS]ボタンを押すことでMIDIピッチベンド・メッセージ送信の有効無効を選択できます。



プログラム/データ表示部の「P」と「b」の間の小さな点が点灯します。この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。

- 2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「P」と「b」の間の小さな点が消え、ピッチベンド・ダウン機能が無効となります。



Cc - (Continuous Controller) コンティニユアス・コントローラー

ピッチベンドダウンセンサーでMIDIコンティニユアス・コントローラー情報を出力するには、このオプションで設定します。

■コンティニユアス・コントローラー機能のオン/オフ (デフォルト設定=オフ)

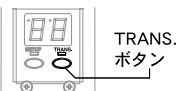
- 1) 「Cc」表示中のとき、[TRANS]ボタンを押すことでMIDIコンティニユアス・コントローラー・メッセージ送信の有効無効を選択できます。

プログラム/データ表示部の「C」と「C」の間の小さな点が点灯します。この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。

→ 次のページへ

- 2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「C」と「C」の間の小さな点が消え、コントローラー機能が無効となります。



■コンティニュアス・コントロールナンバーの変更 (デフォルト=49)

- 1) コンティニュアス・コントローラー機能を有効な状態にします。

前述の「コンティニュアス・コントローラー機能のオン/オフ」を参考にし、この機能を有効にしておいて下さい。

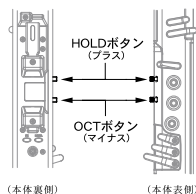
- 2) プログラム/データ表示部の「C」と「C」の間の点が点灯している事を確認下さい。

点灯していると送信可能な状態です。[TRANS]ボタンを再び押すことで「無効」になります。

※ [TRANS]ボタンを押したままにするとグライド・プレートから送信される「MIDI CCナンバー」が表示されます。

- 3) [TRANS] ボタンを押したまま、[HOLD] ボタン、[OCT] ボタンを使ってCCナンバーの数値を増減できます。

数値を決定する場合は目的の数値を表示されている時に[TRANS]ボタンを離して下さい。



(本体裏側)

(本体表側)

注意: コントロールナンバーのセットをする際に、コンティニュアス・コントローラー機能を「オフ」にしてしまいがちです。コントロールナンバーをセットした後はプログラム・データ表示部の「C」と「C」の間の点が点灯していることを

ポルタメント機能(グライド・プレート)

通常、グライド・プレートセンサーに触れる事でポルタメント・オン・メッセージ(MIDI CC#65)が出力され、センサーに触れている量に応じてポルタメント・タイム情報(MIDI CC#05)も出力されます。OSバージョン2では、このグライド・プレート・センサーに対して、上記のポルタメント情報以外に、MIDIコンティニューアス・コントローラーやMIDIオン/オフ・スイッチを自由に(独立して)割り当てる事ができます。

※ MIDIコンティニューアス・コントローラーのデフォルトはCC#05。MIDIスイッチパラメータでのデフォルトはCC#65 = (ポルタメント・オン/オフ)です。

注意: MIDIコンティニューアス・コントローラーの値を「05」以外の値に変更した場合、本体内蔵音源に対するグライド・エフェクトの効果は無効となります。

ポルタメント・モードに入る



1



1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。

[SETUP]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン/[OCT]ボタンを使って、プログラム・データ表示部に「Po」と表示されるまで操作します。



2



2) 「Po」と表示されたら[SETUP]ボタンを離します。

[SETUP]ボタンを離すとポルタメント機能に関するサブメニューの階層に移動します。

ポルタメント・モードのオプション



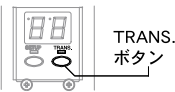
PS (pedal switch) ペダルスイッチ

このサブメニューはグライド・プレートセンサーにMIDIオン/オフスイッチ情報をアサインさせる為のものです(デフォルトは「CC#65(ポルタメントON/OFF)」)。また、MIDIオン/オフスイッチコントローラーとしての有効/無効設定と、送信するMIDIコントロールナンバーを設定する事が出来ます。

■ペダルスイッチ機能のオン/オフ

(デフォルト設定 = オフ)

1) 「PS」が表示されているとき、[TRANS]ボタンを押すことでMIDIスイッチON/OFFメッセージ送信の有効無効を選択できます。



プログラム/データ表示部の「P」と「S」の間の小さな点が点灯します。この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。

→ 次のページへ

- 2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「P」と「S」の間の小さな点が消え、スイッチ機能が無効となります。

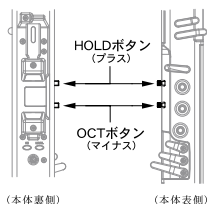


■ペダルスイッチのコントロールナンバーの設定 (デフォルト設定 = CC#65)

- 1) ペダルスイッチ機能を有効な状態にします。

前述のP.15「ペダルスイッチ機能のオン/オフ」を参考にし、ペダルスイッチ機能を有効にしておきます。

- 2) [TRANS]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン、[OCT]ボタンを使ってCCナンバーの数値を増減できます。



決定する場合は、目的の数値を表示させた状態で[TRANS]ボタンを離して下さい。

ヒント: [TRANS]ボタンを押したままにするとグライド・プレートから送信される「MIDI CCナンバー」が表示されます。

注意: コントロールナンバーのセットをする際に、コンティニュアス・コントローラー機能を不意に「オフ」にしてしまいがちです。コントロールナンバーをセットした後はプログラム・データ表示部の「点」が点灯している事をご確認下さい。

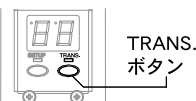


CC - (Continuous Controller) コンティニュアス・コントローラー

グライド・プレートセンサーからMIDIコンティニュアス・コントローラー情報を出力するときはこのオプションで設定します。デフォルトは「CC#05」です。

■コンティニュアス・コントローラー機能のオン/オフ

- 1) 「CC」表示中のとき、[TRANS]ボタンを押すことでMIDIコンティニュアス・コントローラー・メッセージ送信の有効無効を選択できます。



プログラム/データ表示部の「C」と「C」の間の小さな点が点灯します。この点が点灯していると、コントロールは有効となっています。

- 2) 解除するには、もう一度[TRANS]ボタンを押してください。

「C」と「C」の間の小さな点が消え、コントローラー機能が無効となります。

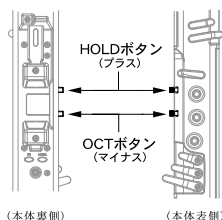
■コンティニュアス・コントロールナンバーの変更 (デフォルト設定 = CC#05)

1) コンティニュアス・コントローラー機能が有効な状態にします。

P.16の「コンティニュアス・コントローラー機能のオン／オフ」を参考にし、この機能をオンにしておいて下さい。

2) [TRANS]ボタンを押したまま、[HOLD]ボタン、[OCT]ボタンを使ってCCナンバーの数値を増減できます。

決定する場合は目的の数値を表示された状態で[TRANS]ボタンを離して下さい。



ヒント：[TRANS]ボタンを押したままにするとグライド・プレートから送信される「MIDI CCナンバー」が表示されます。

注意：MIDIコンティニュアス・コントローラーの値を「05」以外の値に変更した場合、本体内蔵音源に対するグライド・エフェクトの効果は無効となります。

注意：コントロールナンバーのセットをする際に、コンティニュアス・コントローラー機能を不意に「オフ」にしてしまいがちです。コントロールナンバーをセットした後はプログラム・データ表示部の「点」が点灯している事をご確認下さい。

キー・プログラム・チェンジ

EWI4000sはノート・キーにプログラムナンバーを割り当て、演奏中でも瞬時にプログラムを切り替える方法があります。これまでの方法では1オクターブのキー(12個)に限られていた為、それによりアサインできる音色数は12音色以内に限定されていました。

OSバージョン2.0では、この従来の切り替え方法の他に、全ての音域のノート・キー(96個)に96音色をアサインする事も可能となりました。

※ 最新のメニュー構造は、本マニュアルに含まれるV.2.4セクションをご参照下さい。

キー・プログラムチェンジ・モードに入る



1



1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。

[SETUP]ボタンを押したまま、[HOLD]/[OCT]ボタンを使ってプログラム／データ表示部に「dP」(Program Change)と表示されるまで操作します。

2



2) 「dP」と表示されたら[SETUP]ボタンを離します。

[SETUP]ボタンを離すと、オクターブ機能に関するサブメニューの階層に移動します。

キー・プログラムチェンジのオプション



OF - (オフ)

キープログラムチェンジの機能を無効にします。



OC - (1オクターブ 12音色)

デフォルト設定

1オクターブ(12個のノートキー)の範囲内に、キー・プログラムチェンジの設定をします。これによるプログラムチェンジは演奏中のオクターブ制限を受けません。つまり、どのオクターブ内で演奏していたとしても、フィンガリングポジションに対応した12個の音色のいずれかを呼び出す事が出来ます。



AL - (全てのキー 96音色)

全音域(8オクターブ = 96キー)の各ノートキーに96音色を割り当てる事が可能です。上記の「OC」と違い、指定されたオクターブと伴う運指が必要になります。

※ 詳しくは製品付属の取扱説明書P.21「ノートにプログラムナンバーを割り当てる」をご参照ください。

フィンガリング・モード

EWI4000s OS バージョン2には、従来の運指に加え、新しく「AKAI EVI (Electric Valve Instrument)」のフィンガリングモードが2種類用意されました。これにより木管楽器を基本とした従来の運指に加え、金管楽器をベースとした「AKAI EVI」のプレイヤーや多くの金管楽器の奏者の皆様にも簡単にEWI4000sを演奏する事が可能となります。

フィンガリング・モードの設定



①



1) [SETUP]ボタンを押したままにしてください。



[HOLD]／[OCT]ボタンを使って、プログラム／データ表示部に「Fn」(Fingering)と表示されるまで操作します。

②



2) 「Fn」と表示されたら[SETUP]ボタンを離します。

他のフィンガリング・モードへの移動は[HOLD]／[OCT]ボタンを使ってメニューを移動できます。

フィンガリングモード・オプション



Ei - EWIスタンダード

デフォルト設定

EWIスタンダードのフィンガリング・モードです。EWI4000sにおけるデフォルトの設定はこれになります。



Ev - EVIフィンガリング

EVIフィンガリングにおけるもうひとつのモードです。運指は「EVI」ですがオクターブ・ローラーのふるまいはEWIと同じ方向に動作します。このモードは「金管」の運指を試してみたいとお考えのEWIユーザーにお勧めです。

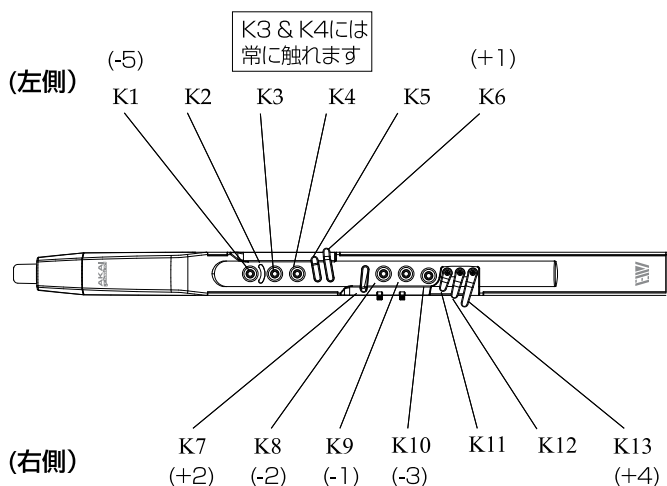


Er - EVIフィンガリング + 反転オクターブ・ローラー

このフィンガリング・モードは実際のEVIにおける左手の動きと密接に重複しているモードです。EVIに慣れ親しんできたプレイヤーには、このモードをお勧めします。

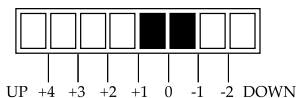
EWI4000s EVIモード運指表

■ノート・キー

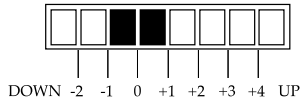


■オクターブ・シフト・ローラー

"Eu"モード



"Er"モード



"0" のポジションがリファレンス・スタンダードです。

EVIフィンガリング・モード詳細

■右手:

右手は3つの「パルプキー」と、「EVI 1stトリルキー」、「EVI 3rdトリルキー」をコントロールします。更に右手の指はバンドセンサーのアップダウンもコントロールします。

EVI上の「ノートキー8、9、10」は金管楽器における「3つのパルプ」に該当します。図の中のカッコ内の数字は触れた時の音程の上下についてです。

ノートキー7(K7)はEVIにおける1番目のトリルキーとしての役割をします。触れている時に全音(+2 note)上げます。

ノートキー8(K8)は全音(-2 note)下がります。

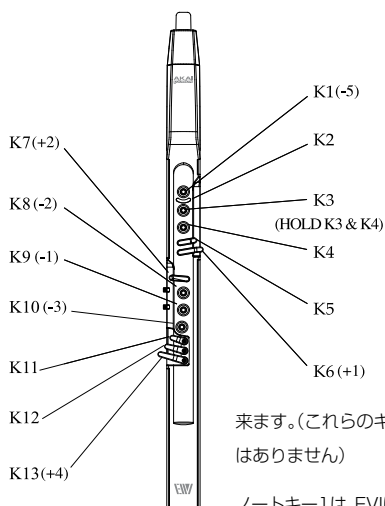
ノートキー9(K9)は半音(-1 note)下がります。

ノートキー10(K10)は全音半(-3 note)下がります。

ノートキー11&12は機能しませんので右手小指の置き場所として使用します。

ノートキー13はEVIにおける3番目のトリルキーとして機能します。触っている時に長3度(+4 note)上げます。(EVI 2ndトリルキーは左手側)。

(右側)



■左手:

左手は「オクターブ」と「半オクターブ」へのシフト、そして「EVI 2ndトリルキー」をコントロールします。また、左手の親指はグライド・センサーもコントロールします。ノートキー3と4は演奏時に常に触れます。

ノートキー5には何の機能も割り当てられていませんが、このキーは他のキーへ不意な接触を防ぐ為の「バリアー」としての枠割りを実果たすでしょう。

(左側)

ノートキー6は「EVI 2ndトリルキー」としての役割を果たします。キーに触れた時、ピッチを半音(+1 note)上げます。















ノートキー3または4のいずれかを離すか、ノートキー6に触れる、もしくはこれらのキーの併用によって+1/2までピッチを上げる事が出来ます。(これらのキーのシフト量は加算式ではありません)

ノートキー1は、EVIにおける「キャニスター」のボタンに指を置く為の場所だと考えて下さい。触れるとピッチは完全4度(-5 note)下がります。一般的な金管楽器の4番目のパルプ、もしくはトロンボーンにおける左手親指のアタッチメントとしてこれを考えてください。

ノートキー2には何の機能も割り当てられていません。このキーは他のキーへ不意な接触を防ぐ為の「バリアー」としての枠割りを実果たすでしょう。

→ 次のページへ

※黒く塗りつぶしてあるKEYをタッチして下さい。

NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)						OCTAVE SHIFT ROLLERS
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12	
 C ²	●	○	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○	 UP 0 DOWN
 D	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 D [#]	●	○	●	●	○	○	○	○	●	●	○	○	
 E	●	○	●	●	○	○	○	●	●	○	○	○	
 F	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 F [#]	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 G	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 G [#]	○	○	●	●	○	○	○	○	●	●	○	○	
 A	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 A [#]	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 B	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 C	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 C [#]	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	

■EVIの基本的な運指

EVIフィンガリングモードにおける基本的な方法をご紹介します。

まず2つのローラーの間に左手の親指を触れておきます。次にノートキー3と4に指を触れてください。これで基本となる「C」が発音されます。このノートキー3と4は演奏時に常に触れ続けるキーです。パルプ・キーはどれも押さえていない状態で「C」が発音され、これはいわゆる「オープン・フィンガリング(どのパルプも押していない)」として考える事が出来るでしょう。

そのまま左手人差し指でノート・キー1に触れてみて下さい。すると下のオクターブの「G」が発音されます。

次は3つのパルプ・キー(ノート・キー8、9、10)を右手で操作し、CもしくはGへ下がっていきます。

Cから下がっていくフィンガリングではAb(G#)が発音されるでしょう。Ab(G#)からGへの移動は、難しいものではありません。左手の人差し指でノートキー1に触れると同時に、右手の指すべてを離すだけです。

次にC#へ向けてどんどん下がっていきましょう。

C#からCに移動するときは、左手人差し指で押さえている「ノートキー」と右手のバルブ・キーすべてを離すと同時に、左手親指のオクターブ・シフト・ローラーを次のオクターブに移します。

このようにしてどんどんスケールを演奏してみてください。

このフィンガリングはどのオクターブにおいても全く同じ形です。

右手のフィンガリングなどはトランペットにおけるミドル「C」からオクターブ下「C」周辺と同じだということがお分かり頂けるはずです。例えば「C#」は常に

ノート・キー8、9、10で演奏する、「D」は常にノート・キー8、10で演奏する...といったようにです。

EVIフィンガリングモードのこの1オクターブの運指を覚えるだけで、EWI4000sのほとんどの発音域をマスターすることが出来ます。

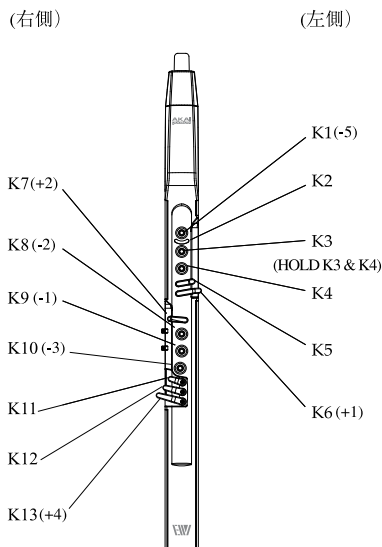
■トリルキーとは？

EVIフィンガリングモードの運指において、「トリル」が困難なポイントを、3つある「トリル・キー」を使うことによって簡単に行うことが出来ます。

P.21の運指表を見てもおわかりいただけるように、右手による7通りのフィンガリングのみでは、12個の半音階からなるオクターブの範囲をカバーする中で、オクターブ途中の運指を切り替える際には、運指上のある種の「交差」が発生してしまいます。具体的に「C」と「C#」の間、「G」と「G#」の間で、右手と左手の両方を同時に変える必要性があり、この音程間でトリルを行うには、かなりトリッキーなテクニックを要求されます。特に「C」と「C#」の間は、同時に左右の複数の指を変える必要があり大変困難です。しかし「トリル・キー」を使うことによってこれを簡単にすることが可能です。

例えば、上記の「C」と「C#」のトリルをするなら、まずCの運指をして「2ndトリルキー(K6 = ノートキー6)に触れて下さい。これだけで通常の運指では大変困難だったトリルがいとも簡単に可能になります。充分にこのトリル・キーを活用して下さい。

このEVIフィンガリングモードにある3つの「トリル・キー」や「バルブ・キー」との組み合わせにより、オリジナルな「替え指」を編み出したり、演奏時の困難なフレーズやパッセージをより簡単にすることができるよう。



*EVIフィンガリング・モードの開発に関して、Patchman Music(www.patchmanmusic.com)のMatt Traumに心より感謝いたします。

EWI4000s OSのアップデート方法

このガイドではEWI4000sのOS(オペレーティングシステム)をアップデートする方法を明記します。

■OSのバージョンアップに必要なもの

- ・MIDIケーブル x 1本(市販品)

MIDIインターフェースとEWI4000s本体を接続するために使います。

- ・MIDIインターフェース(市販品)

パソコン側からMIDIを送信するために必要です。

- ・OSのファイル

EWI4000s用のOSファイルを用意して下さい。

ファイルは<http://www.akaipro.com/>からダウンロードできます。

- ・SMFプレイヤー(市販のシーケンサーソフトなど)

EWI4000sのOSアップデートファイルは、システムエクスクルーシブを含んだ、一般的な「スタンダードMIDIファイル(SMF)」です。このファイルをEWI4000s本体に転送する為に、SMFプレイヤー、もしくはシーケンサーソフト等が必要です。

- ・ Macintosh: Mac OS X

Mac OSXにおいては市販のシーケンサー、または、フリーウェアの"SysEx Librarian"がおすすめです。「SysEx Librarian」は以下のサイトからダウンロード可能です。

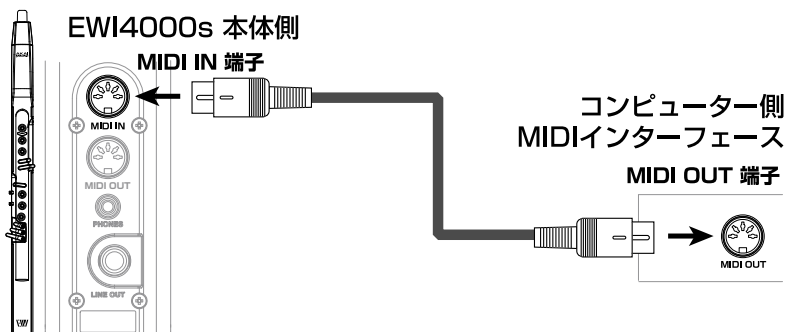
<http://www.snoize.com/SysExLibrarian/>

- ・ Windows XP

Windows環境においては「Windows Media Player 10」を使って送信する事が可能です。または、市販のシーケンサーをお使いください。

■接続のしかた

コンピューター側MIDIインターフェースの「MIDI OUT 端子」と、EWI4000sの「MIDI IN 端子」をMIDIケーブルで接続してください。



■MIDIインターフェース側の準備

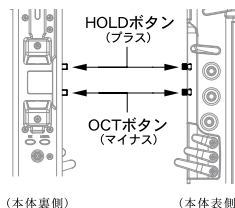
ご使用のパソコンに接続されたMIDIインターフェースから、MIDI信号が確実に送信されているかをご確認下さい。MIDIインターフェースの設定等に関しては、お使いのMIDIインターフェースの取り扱い説明書をご覧ください。

■EWI4000s側の準備

- 1.) [SETUP]ボタンを押したままにします。
- 2.) [SETUP]ボタンを押したまま、[HOLD] / [OCT]ボタンを押して「UP」を選択してください。
- 3.) 「UP」を選択したら、[SETUP]ボタンを離してください。



[SETUP]ボタンを離すと、プログラム／データ表示部に2桁の数字(「10」や「11」など)が表示されます。この数字が、現在お使いのEWI4000sに搭載されているOSのバージョンとなります。



■EWI4000sへOSファイルを送信する

- 1.) お使いのシーケンサーやSMFプレイヤーでOSファイル(「ファイル名.mid」)を開き、再生させます。

ファイルが再生され、EWI4000sがデータを受信すると、自動的にアップデートを開始し、プログラム／データ表示部がアニメーションを開始します。

注意: データ再生中は、シーケンサーの再生を途中で止めないで下さい!

- 2.) 送信が無事終了するとEWI4000sのプログラム／データ表示部にアップデート後のOSバージョンの数字が2桁で表示されます。

例えば、OSのバージョンが2.0であれば「20」という具合に表示されます。

- 3.) EWI4000sの電源を一度切り、数秒間置いた後に再度電源を投入して下さい。
アップデートしたバージョンでEWI4000sをお使いいただけます。

※ 正常にアップデートが行われなかった場合、プログラム／データ表示部には「E」、「Er」もしくは「E1」といった表示がされます。その際は、EWI4000sとインターフェースとの接続、インターフェースの設定等をご確認の上、P.2「EWI4000s側の準備」から再度お試しください。



EWI 4000s

ELECTRIC WIND INSTRUMENT

OS Version 2.4
エディット・メニュー / 運指表

メニューの構造について

EWI4000sはOSバージョン2.0以降において、新たな機能の追加によりメニューの階層が一部変更されました。本バージョン(2.4)においてもキープログラム・チェンジのふるまい改良のためLEDへの表示が変更されました。

以下の表はバージョン2.0以降において変更された階層、及び追加された部分やパラメータの設定範囲、デフォルト値について表記してあります。このEWI4000sをエディットする際には、このリストを参考にしてください。

メニュー・アイテム
サブメニュー
サブメニュー・オプション

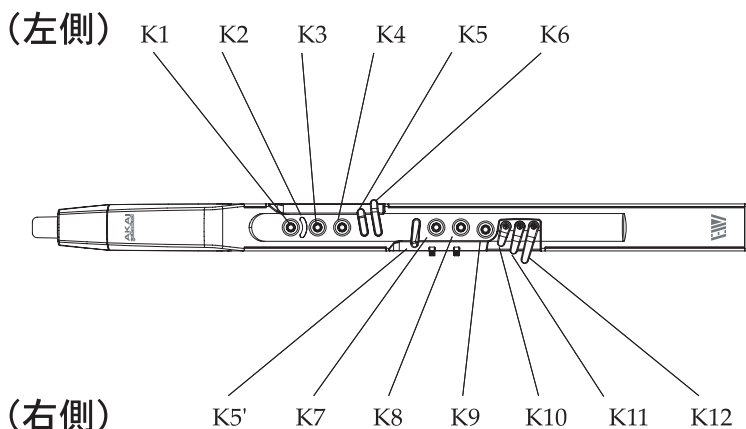
パラメータ	設定範囲	デフォルト (標準設定値)
AD アジャスト		
DL キー・ディレイ	0 ~ 15	7
EH MIDIチャンネル	1 ~ 16	1
EU チューニング	16 ~ 65	40
BS ブレス・センサー (ブレス・センド)		
BO ボリューム		
RF アフター・タッチ		ON
BR ブレス		ON
EP エクスプレッション		
UE ベロシティ		ON
US ビブラート・センサー		
BR ブレス		ON
PR ピッチ・ベンド		
UE ベロシティ・スタティク	1~127	120
PO ポルタメント		
PS ペダル・スイッチ	0 ~ 99	OFF, CC#65
EC コンティニユアス・コントローラー	0 ~ 99	CC#05
OE オクターブ		
OF オフ		
OC オクターブ		デフォルト
IN インターバル・モード		
BN プリセットナンバー・ダウン／デクリメント (-)		
EC コンティニユアス・コントローラー		CC#69
CR コントローラー・ナンバー	0 ~ 99	
DR MIDIデータバリュウ	0~127	
LR ラッチング	ON/OFF	ON (ラッチタイプ)

パラメータ	設定範囲	デフォルト (標準設定値)
H0 ホールド		
0F オフ		
LE レガート		デフォルト
nL ノン・レガート		
S0 サスティン		
UP プリセットUP / インクリメント (+)		
EE コンティニューアス・コントローラー		CC #64
CH コントロール・ナンバー	0~99	
da データ	0~127	
LR ラッチング	ON/OFF	OFF
0L グライド		
RE レイト		デフォルト
EE タイム		
P0 ピッチベンド・アップ		
Pb ピッチベンド・アップのON/OFF	ON/OFF	ON
EE コンティニューアス・コントローラー	0~99	CC #48, 無効
Pd ピッチベンド・ダウン		
Pb ピッチベンド・ダウンのON/OFF	ON/OFF	ON
EE コンティニューアス・コントローラー	0~99	CC #49, 無効
PC キー・プログラム・チェンジ		
dp プログラム・チェンジのON/OFF	ON/OFF	ON
RL プログラム呼び出し範囲(1オクターブ or ALL)	ON/OFF	ON ON = 96音色, OFF = 12音色
EE MIDIプログラムチェンジ送信のON/OFF	ON/OFF	ON
En 運指モード		
EW EWI		デフォルト
SA サクソフォン		
FL フルート		
Ob オーボエ		
EU EVI(トランペット準拠)		
ER EVI(トランペット準拠) オクターブローラー・リバーズ		
UP アップデート		
CP コントロール・プロトコル		
ON ON		デフォルト
OFF OFF		

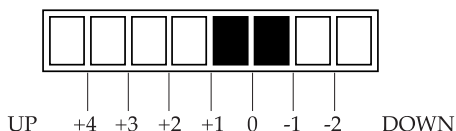
運指表

EWI4000s OSバージョン2.4では今までの運指モードに加え、新たに「フルート」「オーボエ」の運指モードが追加されました。

■ノートキー・ダイアグラム



■オクターブ・ローラー



EWI4000sにおける「キー操作」と「オクターブ・シフト・ローラーのタッチポジション」により EWI4000s本体のMIDI OUT端子から出力する MIDIノートナンバー範囲を書きに示します。

キー操作を加えるとEWI4000sは最低音[A#: 22]から最高音[D#: 111]という広い音域でMIDI 対応の楽器を演奏できます。

オクターブ・シフトローラーの タッチ・ポジション	MIDIノート・ナンバーの 範囲
- 2	24 - 36
- 1	36 - 48
0	48 - 60
+ 1	60 - 72
+ 2	72 - 84
+ 3	86 - 96
+ 4	96 - 108



















※ MIDIノートナンバー[60]が「中央のド(C)」に該当します。

EWI式



















NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)						OCTAVE SHIFT ROLLERS	
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12		K13
 B ^b	●	⌋	●	●	⏏	⬛	⏏	●	●	●	⏏	⬛	⬛	<div><div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><</div></div>

AKAI professional EWI4000s v2.4

サクソフォン

NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)							OCTAVE SHIFT ROLLERS
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12	K13	
 B ^b	●	☾	●	●	☐	▬	☐	●	●	●	☐	▬	▬	
 B	●	☾	●	●	☐	▬	☐	●	●	●	☐	☐	▬	
 C	●	☾	●	●	☐	☐	☐	●	●	●	☐	☐	▬	
 C [#]	●	☾	●	●	▬	☐	☐	●	●	●	☐	☐	▬	
 D	●	☾	●	●	☐	☐	☐	●	●	●	☐	☐	☐	
 D [#]	●	☾	●	●	☐	☐	☐	●	●	●	▬	☐	☐	
 E	●	☾	●	●	☐	☐	☐	●	●	○	☐	☐	☐	
 F	●	☾	●	●	☐	☐	☐	●	○	○	☐	☐	☐	
 F [#]	●	☾	●	●	☐	☐	☐	○	●	○	☐	☐	☐	
 G	●	☾	●	●	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 G [#]	●	☾	●	●	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 A	●	☾	●	○	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 B ^b	●	☾	●	○	☐	☐	▬	○	○	○	☐	☐	☐	
 B ^b _{alt.}	●	☾	○	○	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 B	●	☾	○	○	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 C	○	☾	●	○	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
 C [#]	○	☾	○	○	☐	☐	☐	○	○	○	☐	☐	☐	
D	○	☾	○	○	☐	▬	☐	○	○	○	☐	☐	☐	

フルート


NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)							OCTAVE SHIFT ROLLERs
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12	K13	
 C	●	☺	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○	●	 UP 0 DOWN
 C [#]	●	☺	●	●	○	○	○	●	●	●	○	●	○	
 D	●	☺	●	●	○	○	○	●	●	●	○	○	○	
 D [#]	●	☺	●	●	○	○	○	●	●	●	●	○	○	
 E	●	☺	●	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	
 F	●	☺	●	●	○	○	○	●	○	○	○	○	○	
 F [#]	●	☺	●	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	
 F [#] alt.	●	☺	●	●	○	○	○	○	●	○	○	○	○	
 G	●	☺	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
 G [#]	●	☺	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 A	●	☺	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
 A alt.	●	☺	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	
 B ^b	●	☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>If any 1 or more of the K7, K8, or K9 keys are pressed, the note should stay B^b.</p>
 B ^b alt.	●	☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
 B	●	☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>This is the only non-flute fingering that flute players will need to get used to.</p>
 C	○	☺	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
 C [#]	○	☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

オーボエ

OCTAVE SHIFT ROLLERS

UP 0 DOWN

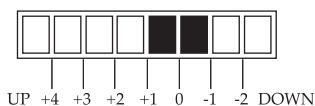
EVI

NOTE	NOTE KEYS (LEFT)						NOTE KEYS (RIGHT)							OCTAVE SHIFT ROLLERS
	K1	K2	K3	K4	K5	K6	K7	K8	K9	K10	K11	K12	K13	
 C ⁴	●	◐	●	●	◐	◐	◐	●	●	●	◐	◐	◐	<div><div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></</div></div></div>

■ オクターブシフト・ローラー

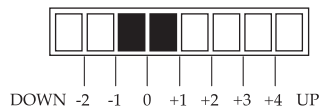
“0” のポジションがリファレンス・スタンダードです。

“Eu”モード



“Er”

オクターブシフトローラー反転モード



無料修理規定

- 1. 保証期間内に故障して、無料修理をご依頼の場合は、お買上げの販売店にご依頼の上、本書をご提示ください。
- 2. ご贈答品などで本書に記入してあるお買上げ販売店に修理がご依頼できない場合には弊社カスタマーサポート部へご相談ください。
- 3. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) ご使用上の誤り、及び不当の修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買上げ後の取付け場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
 - (ニ) 消耗部品を取替える場合。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にご愛用者名、お買上げ日、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
- 4. inMusic Japanは、製品の使用不可能または不具合に基づく損害、また法律の定める範囲内での人身傷害を含める、いかなる二次的、及び間接的な損害賠償の責任を負いません。保証条件や本保証に基づきinMusic Japanが負う責任は、販売国の国内でのみ有効です。本保証で定められた修理は、inMusic Japanでのみ行われるものとします。

* この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後についてご不明の場合は、お買上げの販売店または弊社カスタマー・サポート へご相談ください。

保証書	
製品名:	
製造番号:	
ご購入日:	
保証期間:ご購入日から一年間	
お客様	販売店名
お名前:	ご住所:
ご住所:	
お電話:	お電話:

inMusic Japan株式会社 カスタマー・サポート
〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23 オーク南麻布ビルディング6F
お問い合わせ: <http://akai-pro.jp/support/>

- ・ 本書に記入のない場合は、有効となりませんので、直ちにお買上げの販売店にお申し出ください。
- ・ 本書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- ・ 本書は日本国内においてのみ有効です。